

## ごみの減量化・リサイクルに関する市民アンケート 集計結果

### 1 調査目的

市民のごみの排出実態や、3R（ごみの発生・排出抑制（リデュース）・再使用（リユース）・再生利用（リサイクル））に関する取組状況を調査することにより、市民の3Rに対する意識を把握し、川崎市一般廃棄物処理基本計画の改定に向けた基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査期間 平成26年4月28日（月） ～ 5月14日（水）

### 3 調査設計

- (1) 調査地域 川崎市全域
- (2) 調査対象 川崎市内在住の満20歳以上の男女個人（外国人市民含む） 3,000人
- (3) 抽出方法 無作為抽出による
- (4) 母集団 住民基本台帳

4 回答状況 1,575通（52.5%）

### 5 集計結果

各設問の集計結果は次のとおりである。

※性別／年齢別、居住地別の比率算出にあたっての母数は次のとおり。

なお、性別／年齢別の比率は、不明を除いて算出している。

性別／年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	小計	不明
男	65人	116人	149人	96人	126人	94人	646人	/
女	89人	173人	198人	159人	164人	124人	907人	/
合計	154人	289人	347人	255人	290人	218人	1,553人	22人

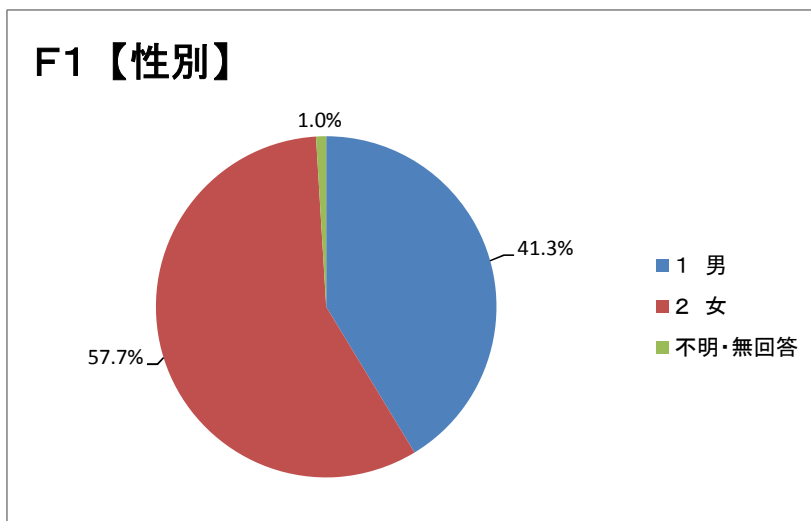
居住地別

川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全体
227人	160人	263人	242人	244人	227人	212人	1,575人

## 【フェイスシート】

### F1 あなたの性別

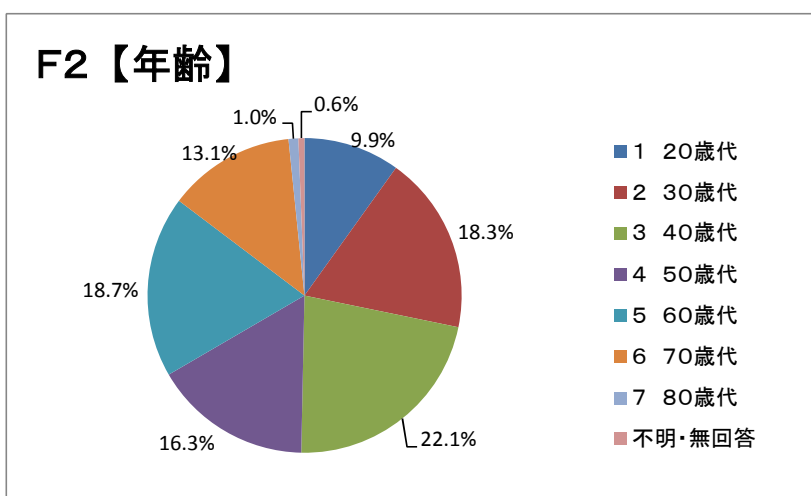
選択肢	回答数	比率
1 男	650	41.3%
2 女	909	57.7%
不明・無回答	16	1.0%
合計	1,575	100%



回答者の性別は「女」が57.7%、「男」が41.3%である。

### F2 あなたの年齢

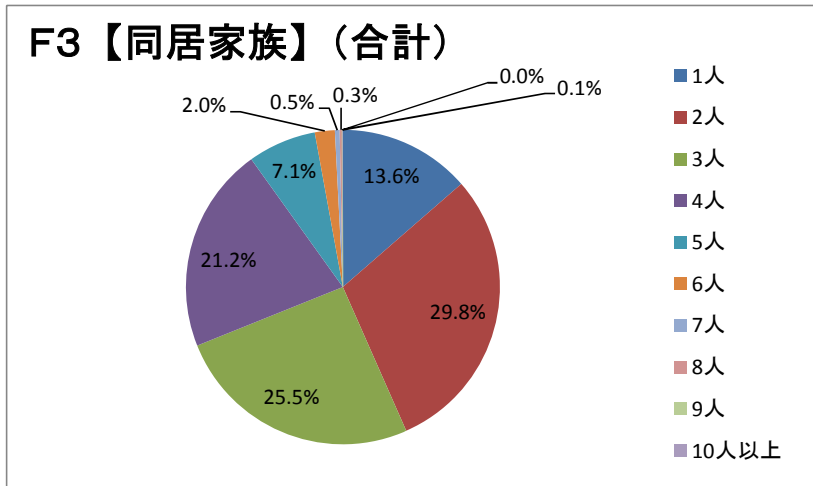
選択肢	回答数	比率
1 20歳代	156	9.9%
2 30歳代	289	18.4%
3 40歳代	348	22.1%
4 50歳代	256	16.3%
5 60歳代	294	18.7%
6 70歳代	206	13.1%
7 80歳代	16	1.0%
不明・無回答	10	0.6%
合計	1,575	100%



回答者を年齢別にみると、「40歳代」が22.1%と最も多かった。次いで「60歳代」が18.7%、「30歳代」が18.4%、「50歳代」が16.3%、「70歳代」が13.1%である。

F3 あなたの現在同居しているご家族は、あなたを含めて何人ですか。

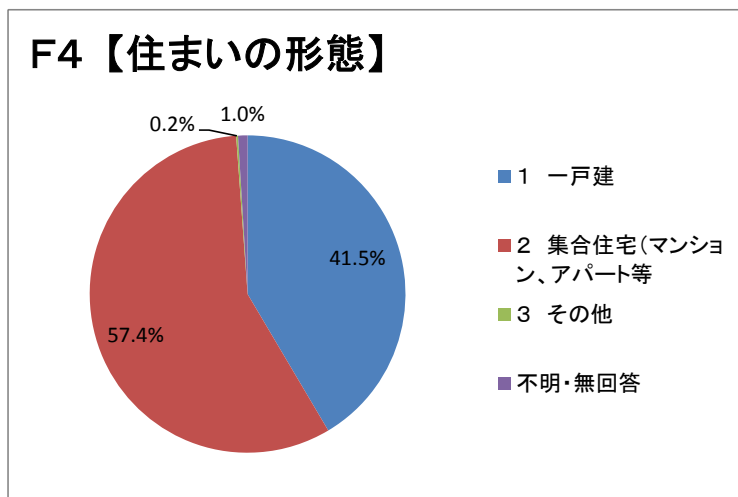
選択肢	回答数	比率
1人	214	13.6%
2人	470	29.8%
3人	402	25.5%
4人	333	21.1%
5人	111	7.1%
6人	32	2.0%
7人	8	0.5%
8人	4	0.3%
9人	0	0.0%
10人以上	1	0.1%
合計	1,575	100%



同居家族の人数は、「2人」が29.8%と最も多かった。次いで「3人」が25.5%、「4人」が21.1%、「1人」が13.6%である。

F4 あなたの現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。

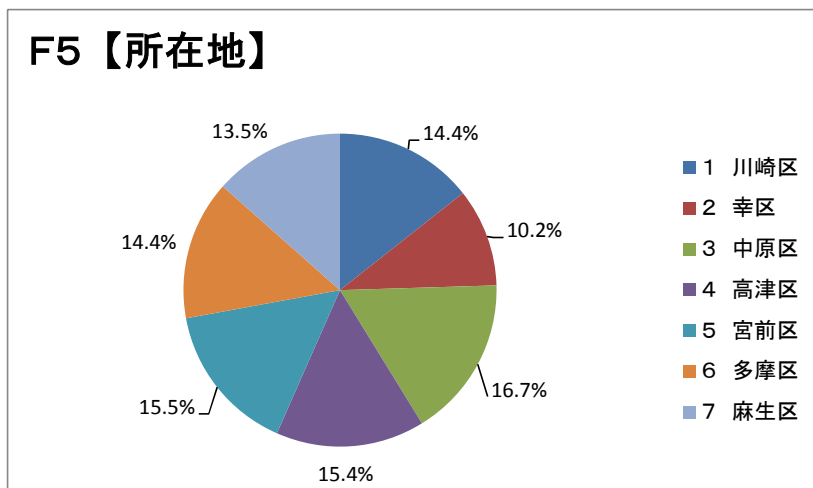
選択肢	回答数	比率
1 一戸建	653	41.5%
2 集合住宅(マンション、アパート等)	904	57.4%
3 その他	3	0.2%
不明・無回答	15	1.0%
合計	1,575	100%



住まいの形態は、「集合住宅」が57.4%、「一戸建」が41.5%である。

F5 あなたが現在お住まいの区はどちらですか。

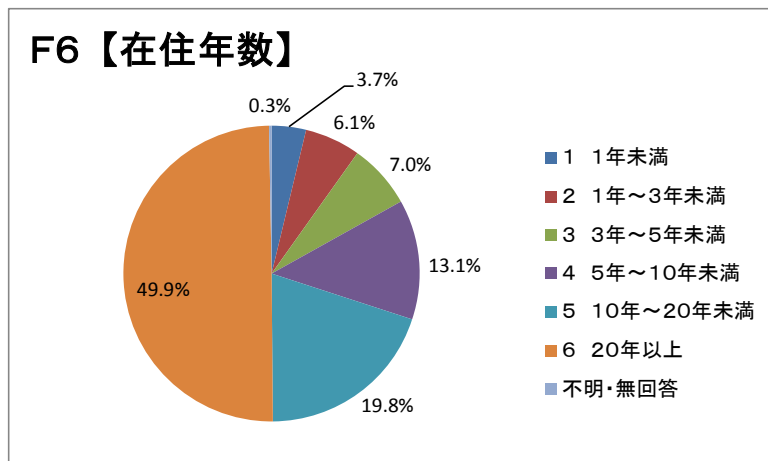
選択肢	回答数	比率
1 川崎区	227	14.4%
2 幸区	160	10.2%
3 中原区	263	16.7%
4 高津区	242	15.4%
5 宮前区	244	15.5%
6 多摩区	227	14.4%
7 麻生区	212	13.5%
合計	1,575	100%



所在地は、「中原区」が16.7%と最も多かった。次いで「宮前区」が15.5%、「高津区」が15.4%、「川崎区」と「多摩区」が14.4%、「麻生区」が13.5%、「幸区」が10.2%である。

F6 川崎市にお住まいになってどのくらいになりますか。

選択肢	回答数	比率
1 1年未満	59	3.7%
2 1年～3年未満	96	6.1%
3 3年～5年未満	111	7.0%
4 5年～10年未満	207	13.1%
5 10年～20年未満	312	19.8%
6 20年以上	786	49.9%
不明・無回答	4	0.3%
合計	1,575	100%



在住年数は、「20年以上」が49.9%と最も多かった。次いで「10年～20年未満」が19.8%、「5年～10年未満」が13.1%である。

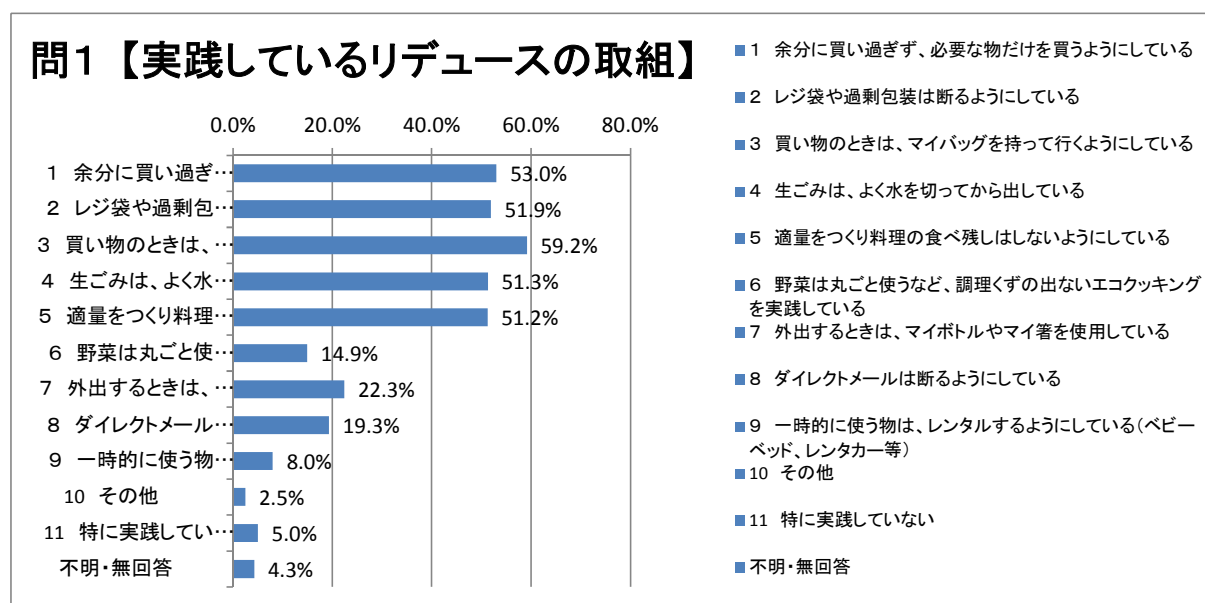
## 【家庭のごみの減量化に関すること】

質問1 ごみをださない取組(リデュース)として、あなたが実践しているものに○をつけてください。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 余分に買い過ぎず、必要な物だけを買うようにしている	835	53.0%
2 レジ袋や過剰包装は断るようになっている	818	51.9%
3 買い物のときは、マイバッグを持って行くようになっている	932	59.2%
4 生ごみは、よく水を切ってから出している	808	51.3%
5 適量をつくり料理の食べ残しはしないようになっている	807	51.2%
6 野菜は丸ごと使うなど、調理くずの出ないエコクッキングを実践している	235	14.9%
7 外出するときは、マイボトルやマイ箸を使用している	352	22.3%
8 ダイレクトメールは断るようになっている	304	19.3%
9 一時的に使う物は、レンタルするようになっている(ベビーベッド、レンタカー等)	126	8.0%
10 その他	39	2.5%
11 特に実践していない	79	5.0%
不明・無回答	67	4.3%

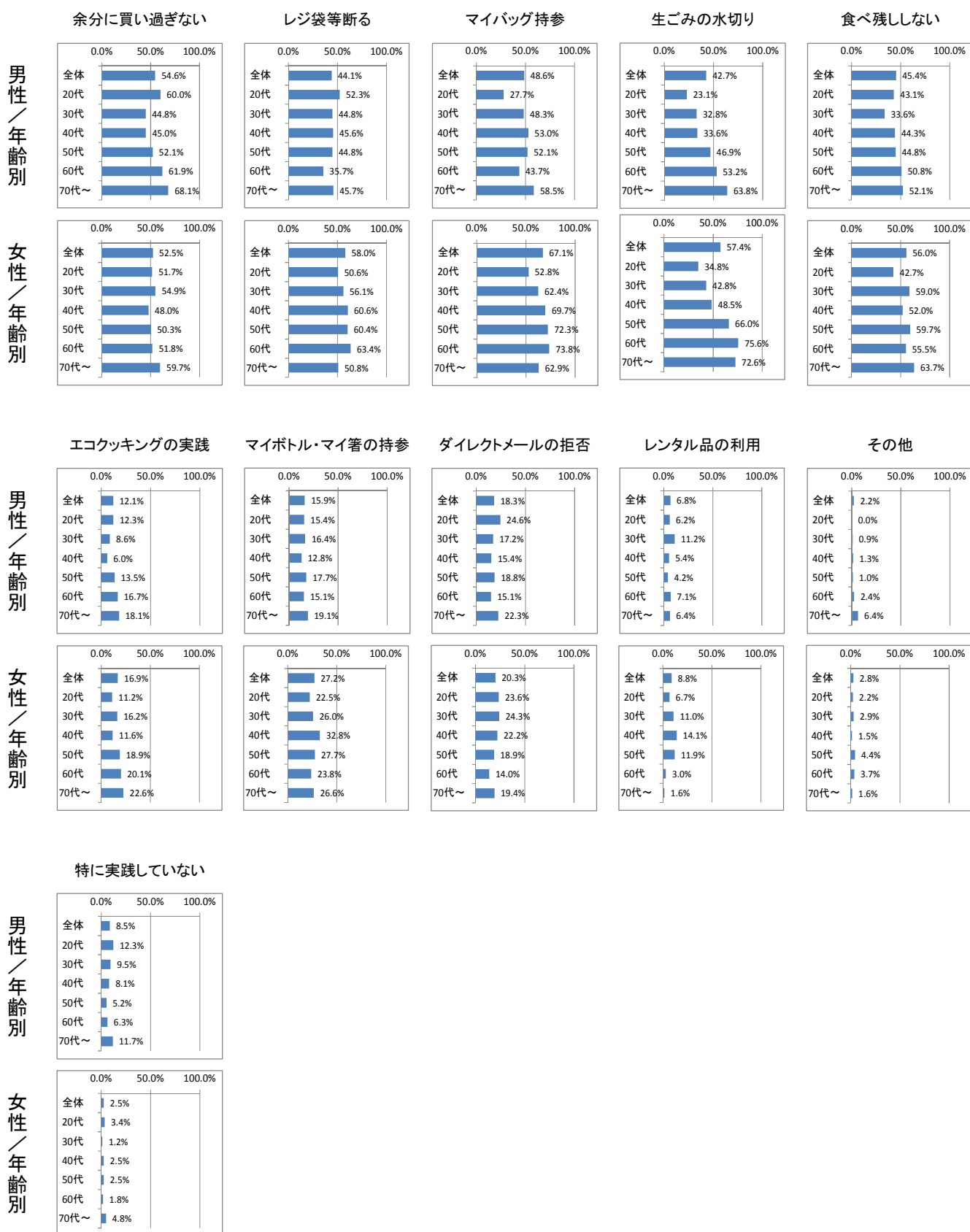
\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例: ディスポーザーによる生ごみ処理、ネットオークションの利用、折込広告を断る、布おむつの使用等)



「買い物のときは、マイバッグを持って行くようになっている」が59.2%と最も多かった。次いで「余分に買い過ぎず、必要な物だけを買うようにしている」が53.0%、「レジ袋や過剰包装は断るようになっている」が51.9%、「生ごみは、よく水を切ってから出している」が51.3%、「適量をつくり料理の食べ残しはしないようになっている」が51.2%、「外出するときは、マイボトルやマイ箸を使用している」が22.3%、「ダイレクトメールは断るようになっている」が19.3%、「野菜は丸ごと使うなど、調理くずの出ないエコクッキングを実践している」が14.9%である。

図表1-1 ごみをださない取組(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「余分に買い過ぎない」は、男性では30歳代以上では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、女性では40歳代以上で同じ傾向がみられる。

「レジ袋等断る」は、男性では20歳代が最も多いのに対し、女性では60歳代が最も多い。

「マイバッグ持参」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では70歳代以上を除き、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「生ごみの水切り」は、男性では全年齢を通して、女性では70歳代以上を除き、ともに年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「食べ残ししない」は、男性では30歳代を除き年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では70歳代以上、50歳代、30歳代が多くなっている。

「エコクッキングの実践」は、男女ともに40歳代以上では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「マイボトル・マイ箸の持参」は、男性は70歳代以上、女性は40歳代が最も多くなっている。

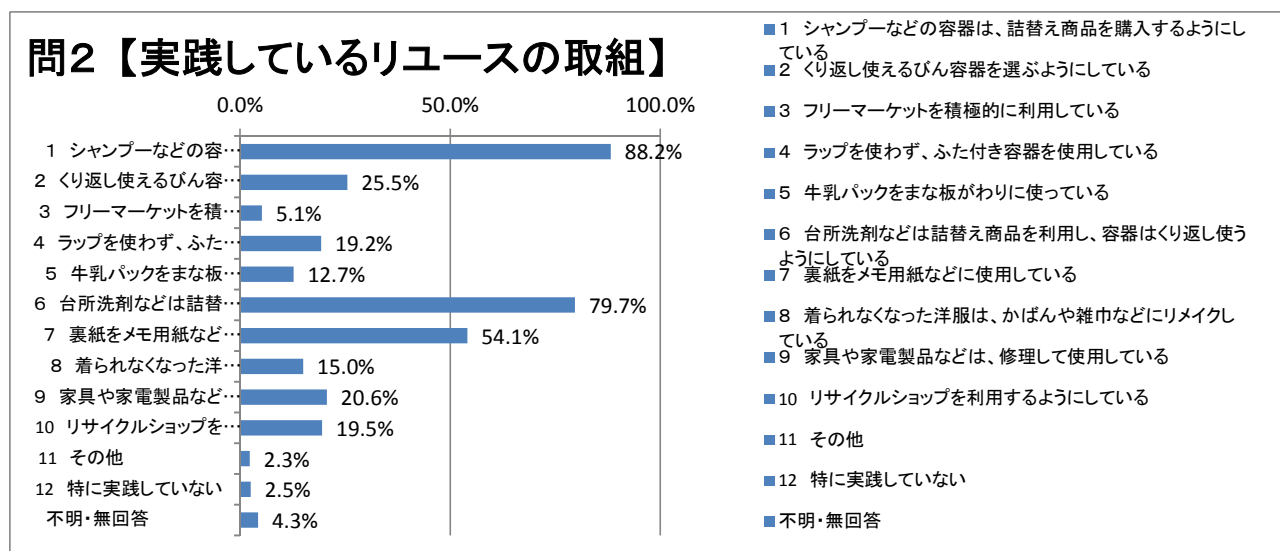
「ダイレクトメールの拒否」は、男性は20歳代、女性は30歳代が最も多くなっている。

質問2 繰り返し使う取組(リユース)として、あなたが実践しているものに○をつけてください。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 シャンプーなどの容器は、詰替え商品を購入するようにしている	1,389	88.2%
2 くり返し使えるびん容器を選ぶようにしている	402	25.5%
3 フリーマーケットを積極的に利用している	81	5.1%
4 ラップを使わず、ふた付き容器を使用している	303	19.2%
5 牛乳パックをまな板がわりに使っている	200	12.7%
6 台所洗剤などは詰替え商品を利用し、容器はくり返し使うようにしている	1,255	79.7%
7 裏紙をメモ用紙などに使用している	852	54.1%
8 着られなくなった洋服は、かばんや雑巾などにリメイクしている	236	15.0%
9 家具や家電製品などは、修理して使用している	325	20.6%
10 リサイクルショップを利用するようにしている	307	19.5%
11 その他	36	2.3%
12 特に実践していない	39	2.5%
不明・無回答	67	4.3%

\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

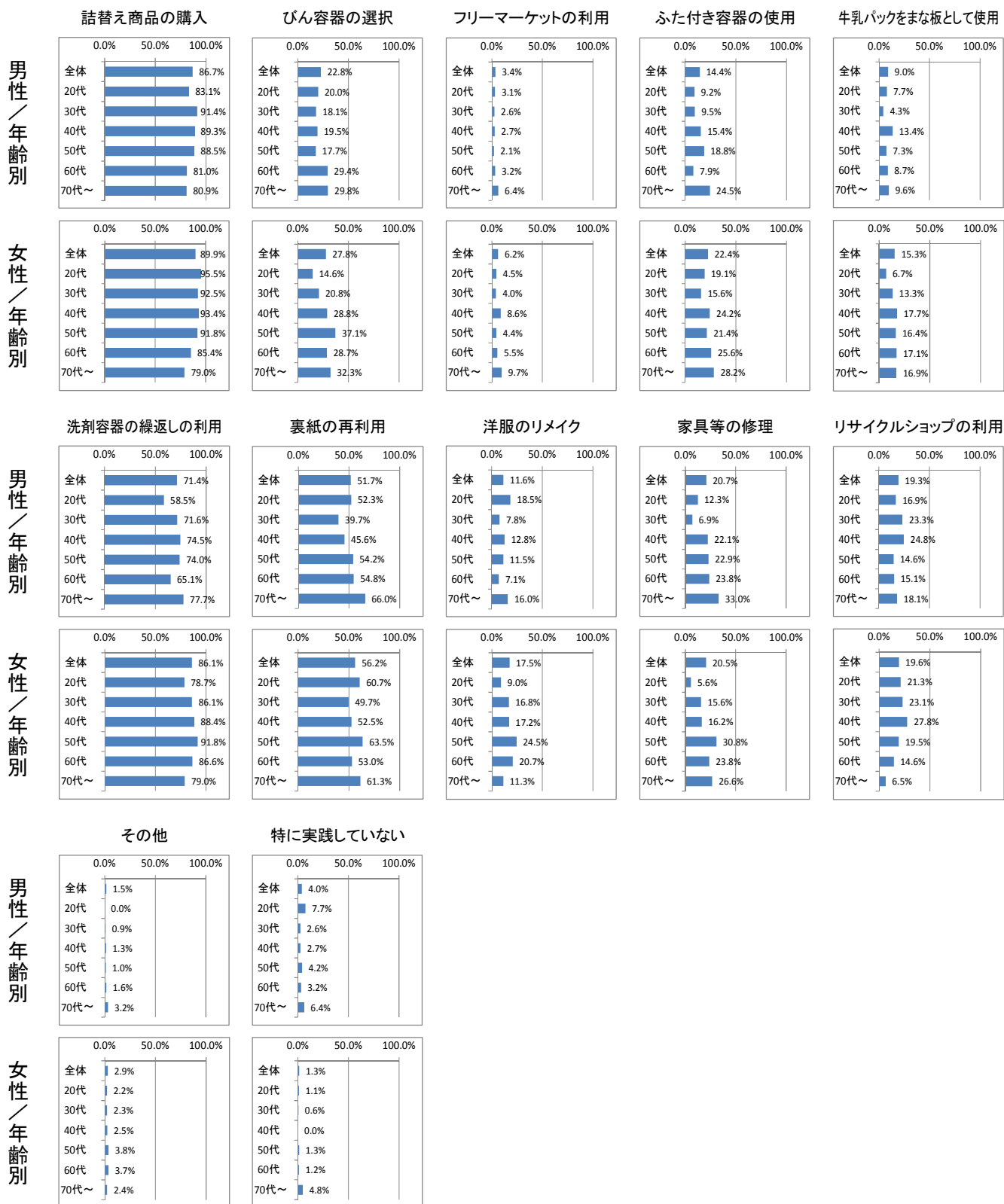
(その他の例:シリコン製のお弁当用おかずカップを使用、ネットオークションの利用等)



「シャンプーなどの容器は、詰替え商品を購入するようにしている」が88.2%と最も多かった。次いで「台所洗剤などは詰替え商品を利用し、容器はくり返し使うようにしている」が79.7%、「裏紙をメモ用紙などに使用している」が54.1%、「くり返し使えるびん容器を選ぶようにしている」が25.5%、「家具や家電製品などは、修理して使用している」が20.6%、「リサイクルショップを利用するようにしている」が19.5%、「ラップを使わず、ふた付き容器を使用している」が19.2%、「着られなくなった洋服は、かばんや雑巾などにリメイクしている」が15.0%、「牛乳パックをまな板がわりに使っている」が12.7%である。



図表1-2 繰り返し使う取組(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「詰替え商品の購入」は、男性では30歳代が一番多く、年齢が高くなるにつれ割合が概ね減る傾向にあり、女性では20歳代が一番多く、年齢が高くなるにつれ割合が概ね減る傾向にある。

「びん容器の選択」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

「ふた付き容器の使用」は、男性では男女ともに70歳代以上が最も多くなっている。

「牛乳パックをまな板として使用」は、男女ともに40歳代が最も多くなっている。

「洗剤容器の繰返しの利用」は、男性では70歳代以上が最も多くなっているのに対し、女性では50歳代が最も多くなっている。

「裏紙の再利用」は、男性では30歳代以上では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では50歳代が最も多くなっている。

「洋服のリメイク」は、男性では20歳代が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多くなっている。

「家具等の修理」は、男性では30歳代を除いて年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では50歳代が最も多くなっている。

「リサイクルショップの利用」は、男女ともに40歳代が最も多くなっている。

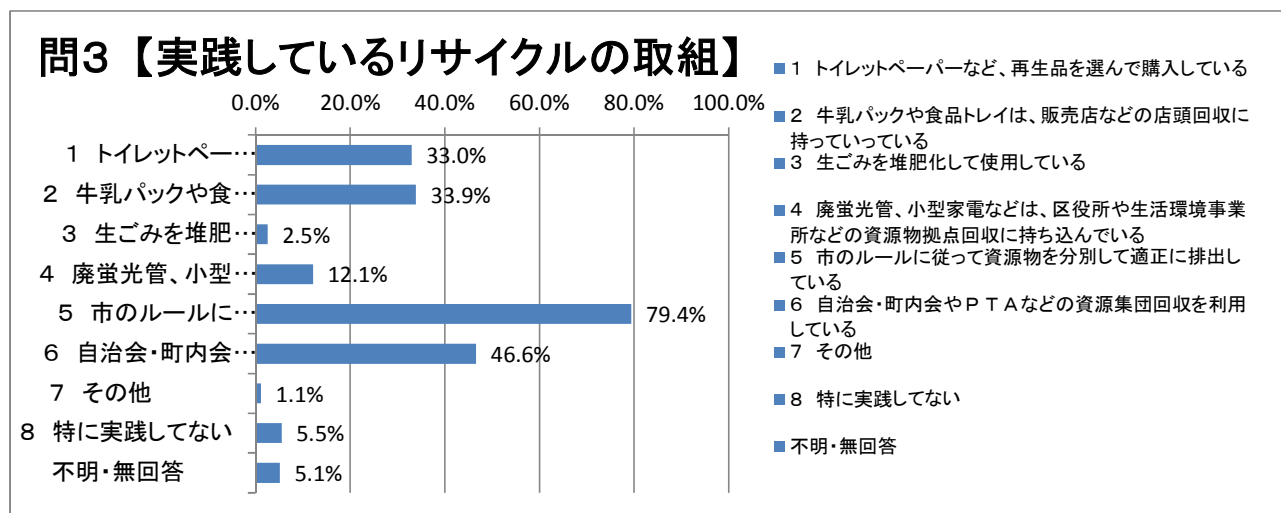
## 【家庭のごみの資源化に関すること】

質問3 ごみのリサイクルに向けた取組として、あなたが実践しているものに○をつけてください。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 トイレtpーパーなど、再生品を選んで購入している	519	33.0%
2 牛乳パックや食品トレイは、販売店などの店頭回収に持っていつている	534	33.9%
3 生ごみを堆肥化して使用している	40	2.5%
4 廃蛍光管、小型家電などは、区役所や生活環境事業所などの資源物拠点回収に持ち込んでいる	191	12.1%
5 市のルールに従って資源物を分別して適正に排出している	1,251	79.4%
6 自治会・町内会やPTAなどの資源集団回収を利用している	734	46.6%
7 その他	18	1.1%
8 特に実践してない	87	5.5%
不明・無回答	81	5.1%

\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例:ペットボトルのキャップは別に集めて学校等に出している等)



「市のルールに従って資源物を分別して適正に排出している」が79.4%と最も多かつた。次いで「自治会・町内会やPTAなどの資源集団回収を利用している」が46.6%、「牛乳パックや食品トレイは、販売店などの店頭回収に持っていつている」が33.9%、「トイレtpーパーなど、再生品を選んで購入している」が33.0%、「廃蛍光管、小型家電などは、区役所や生活環境事業所などの資源物拠点回収に持ち込んでいる」が12.1%である。

図表1-3 リサイクルに向けた取組(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「再生品の購入」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では70歳代以上を除いて年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「店頭回収の利用」は、男性では60歳代を除いて年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では50歳代が最も多い。

「拠点回収の利用」は、男性では全年齢を通して、女性では70歳代以上を除いて、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「資源物の適正な分別」は、男性では全年齢を通して年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では50歳代が最も高くなっている。

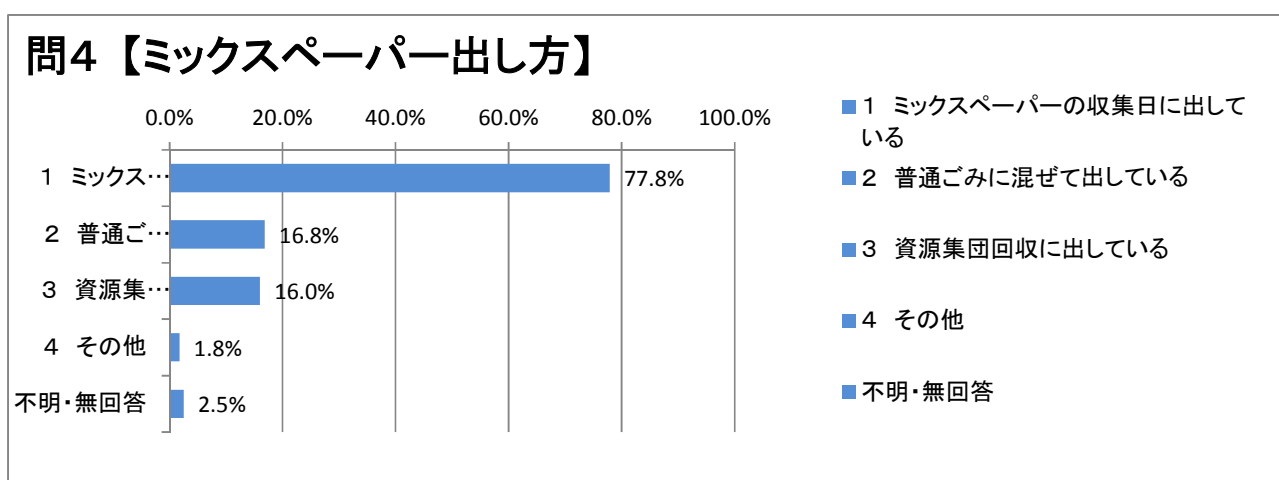
「資源集団回収の利用」は、男性では全年齢を通して年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているのに対し、女性では50歳代が最も多い。

質問4 ミックスペーパーは、普段どのように出していますか。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 ミックスペーパーの収集日に出している	1,226	77.8%
2 普通ごみに混ぜて出している ⇒質問4-1	265	16.8%
3 資源集団回収に出している	252	16.0%
4 その他	28	1.8%
不明・無回答	39	2.5%

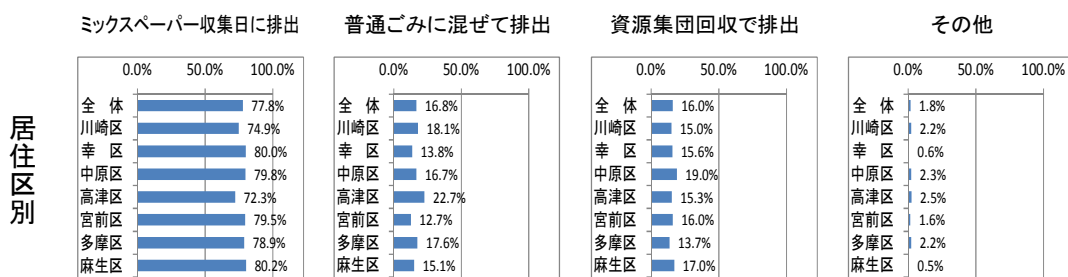
\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例: マンションの管理組合で仕分けしている等)



「ミックスペーパーの収集日に出している」が77.8%と最も多かった。次いで「普通ごみに混ぜて出している」が16.8%、「資源集団回収に出している」が16.0%である。

図表2-1 ミックスペーパーの出し方(居住区別)



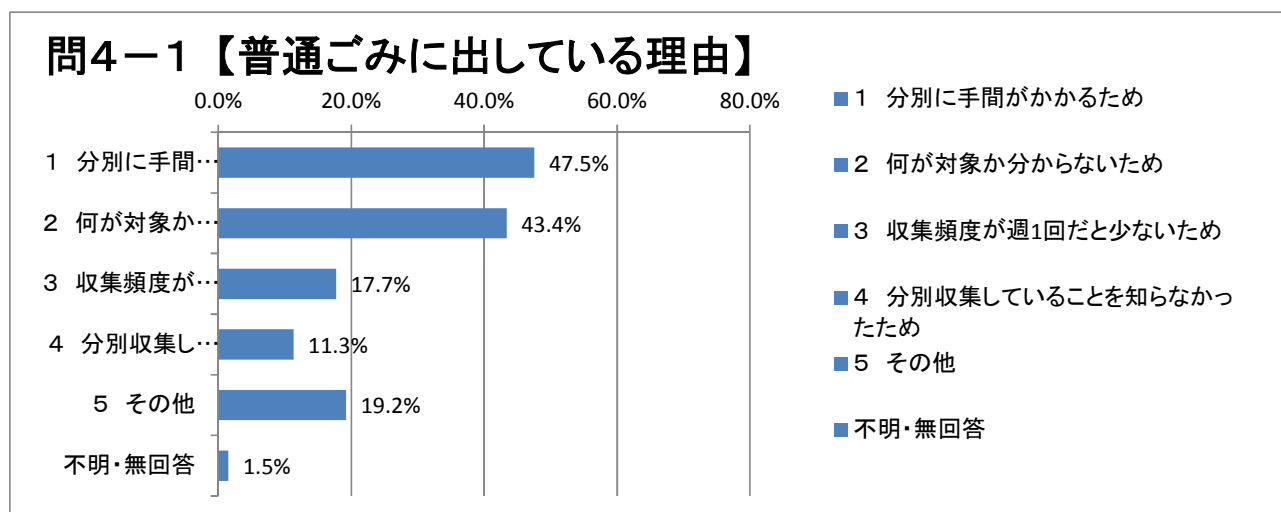
居住区別では、「ミックスペーパー収集日に排出」は、麻生区が80.2%と最も高く、高津区が72.3%で最も低い。「普通ごみに混ぜて排出」は、高津区が22.7%と最も高く、宮前区が12.7%で最も低い。「資源集団回収で排出」は、中原区が19.0%と最も高く、多摩区が13.7%で最も低い。

質問4-1 ミックスペーパーを普通ごみに出している理由を教えてください。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 分別に手間がかかるため	126	47.5%
2 何が対象か分からないため	115	43.4%
3 収集頻度が週1回だと少ないため	47	17.7%
4 分別収集していることを知らなかったため	30	11.3%
5 その他	51	19.2%
不明・無回答	4	1.5%

\* 回答数(265)を100とした時の比率

(その他の例:紙袋がない、必要性を感じない、焼却の方が経済的、個人情報を含むものは普通ごみに混ぜている等)

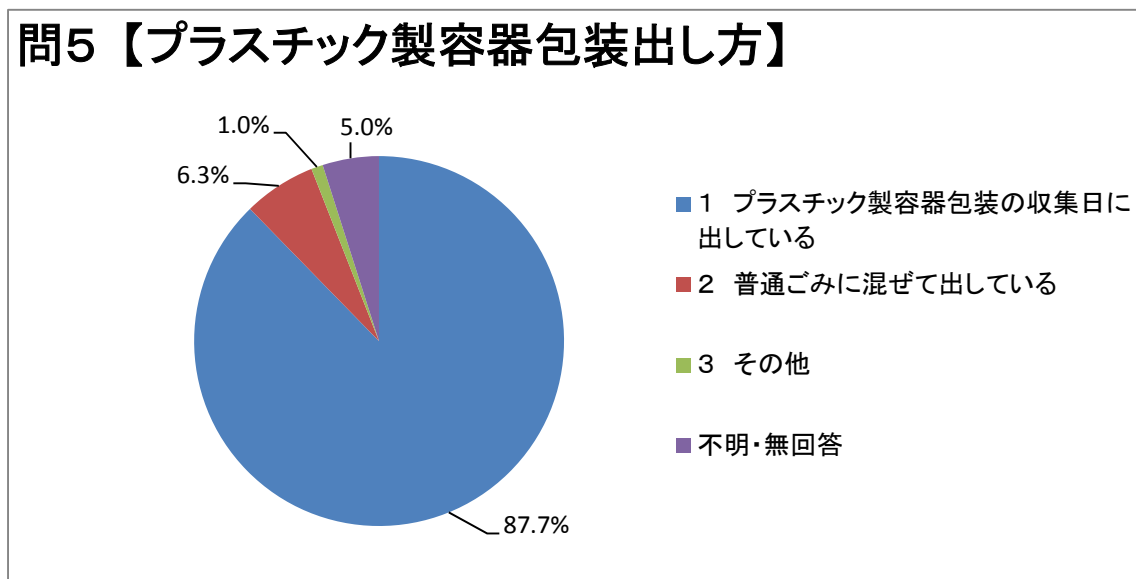


「分別に手間がかかるため」が47.5%と最も多かった。次いで「何が対象か分からないため」が43.4%、「その他」が19.2%、「収集頻度が週1回だと少ないため」が17.7%、「分別収集していることを知らなかったため」が11.3%である。

質問5 プラスチック製容器包装は、普段どのように出していますか。(1つに○)

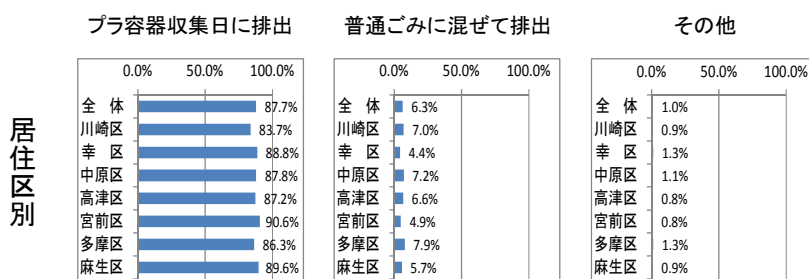
選択肢	回答数	比率
1 プラスチック製容器包装の収集日に出している	1,381	87.7%
2 普通ごみに混ぜて出している ⇒質問5-1	100	6.3%
3 その他	16	1.0%
不明・無回答	78	5.0%
合計	1,575	100%

(その他の例:スーパーの拠点回収を利用等)



「プラスチック製容器包装の収集日に出している」が 87.7%と最も多かった。「普通ごみに混ぜて出している」は 6.3%である。

図表2-2 プラスチック製容器包装の出し方(居住区別)



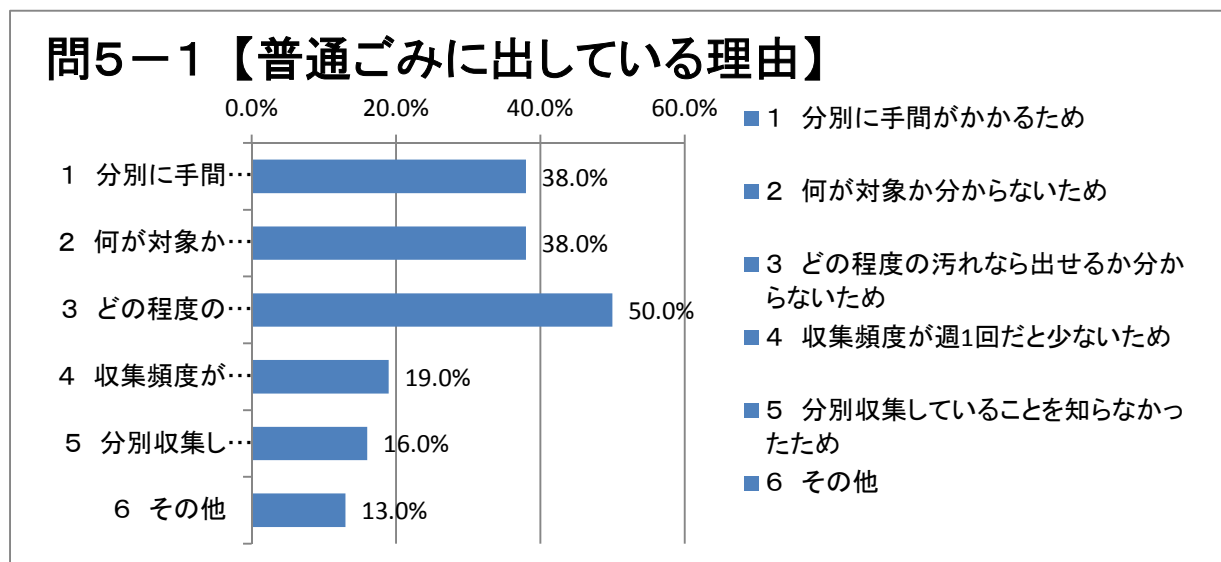
居住区別では、「プラ容器収集日に排出」は、宮前区が 90.6%と最も高く、川崎区が 83.7%で最も低い。「普通ごみに混ぜて排出」は、多摩区が 7.9%と最も高く、幸区が 4.4%で最も低い。

質問5-1 プラスチック製容器包装を普通ごみに出している理由を教えてください。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 分別に手間がかかるため	38	38.0%
2 何が対象か分からないため	38	38.0%
3 どの程度の汚れなら出せるか分からないため	50	50.0%
4 収集頻度が週1回だと少ないため	19	19.0%
5 分別収集していることを知らなかったため	16	16.0%
6 その他	13	13.0%

\* 回答数(100)を100とした時の比率

(その他の例:洗うのが大変、洗剤・水の無駄、保管場所がない、本当はリサイクルされていないのでは等)

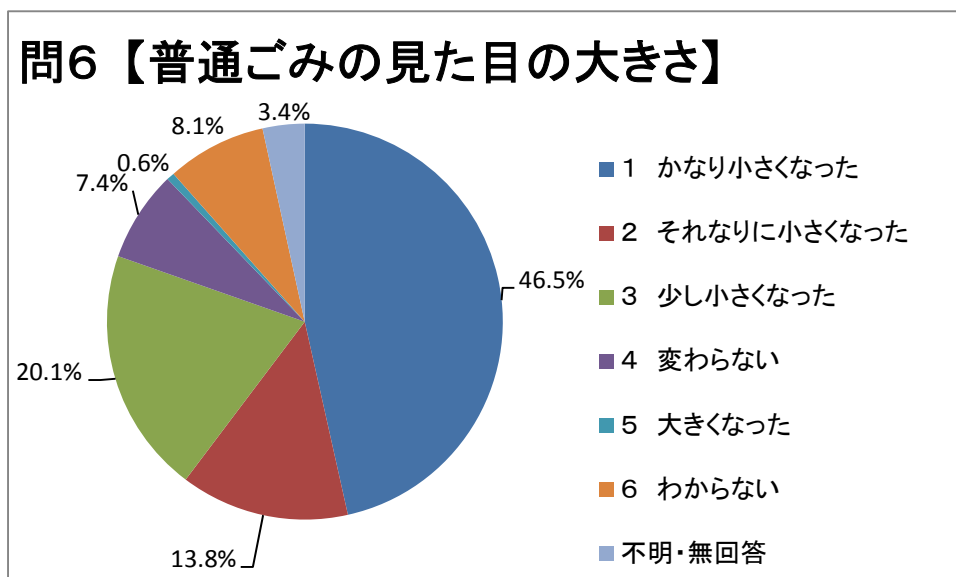


「どの程度の汚れなら出せるか分からないため」が50.0%と最も多かった。次いで、「分別に手間がかかるため」と「何が対象か分からないため」が38.0%、「収集頻度が週1回だと少ないため」が19.0%、「分別収集していることを知らなかったため」が16.0%、「その他」が13.0%である。



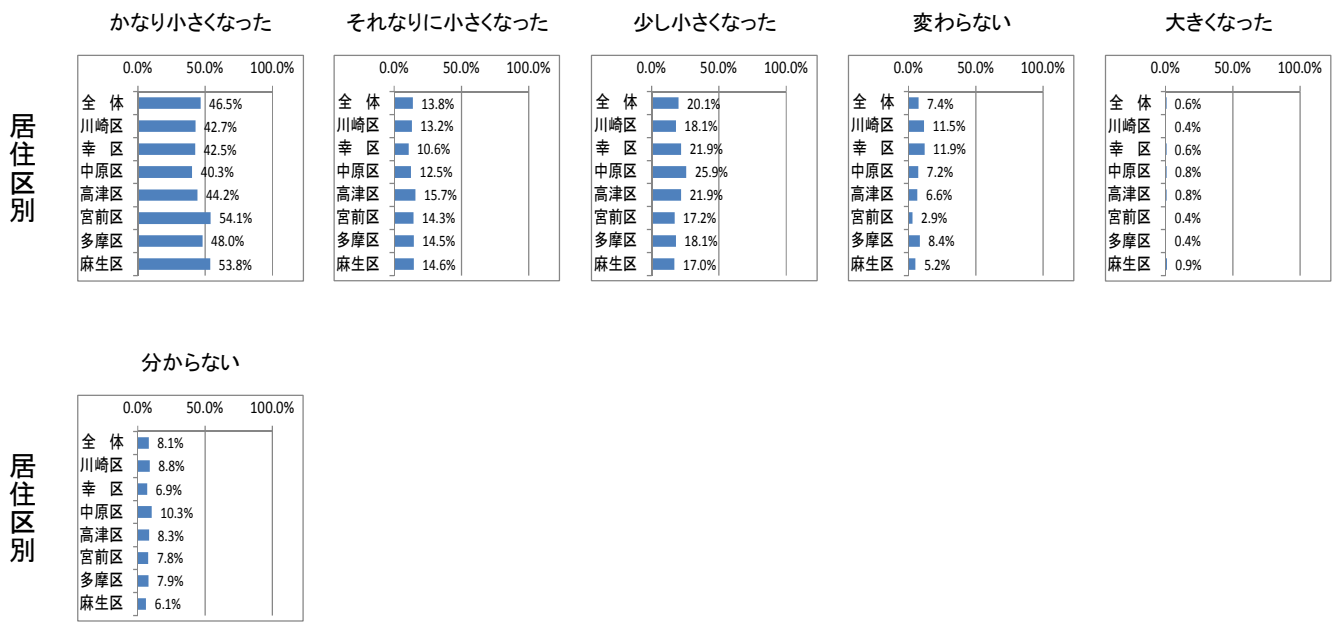
質問6 ミックスペーパーやプラスチック製容器包装など分別収集を拡充した結果、普通ごみの見た目の大きさ（重さではありません）はどのようになったと感じますか。（1つに○）

選択肢	回答数	比率
1 かなり小さくなった	733	46.5%
2 それなりに小さくなった	217	13.8%
3 少し小さくなった	316	20.1%
4 変わらない	117	7.4%
5 大きくなった	10	0.6%
6 わからない	128	8.1%
不明・無回答	54	3.4%
合計	1,575	100%



「かなり小さくなった」が 46.5%と最も多かった。次いで、「少し小さくなった」が 20.1%、「それなりに小さくなった」が 13.8%である。

図表2-3 普通ごみの見た目の大きさ(居住区別)

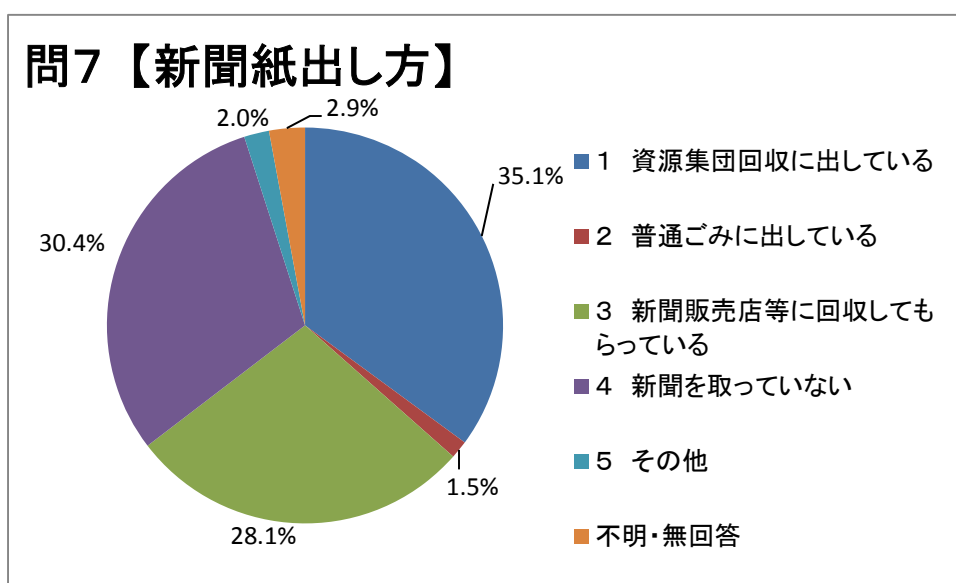


居住区別では、「かなり小さくなった」は、宮前区が54.1%と最も高く、中原区が40.3%で最も低い。「それなりに小さくなった」は、高津区が15.7%と最も高く、幸区が10.6%で最も低い。「少し小さくなった」は、中原区が25.9%と最も高く、麻生区が17.0%で最も低い。

質問7 新聞紙は、普段どのように出していますか。(1つに○)

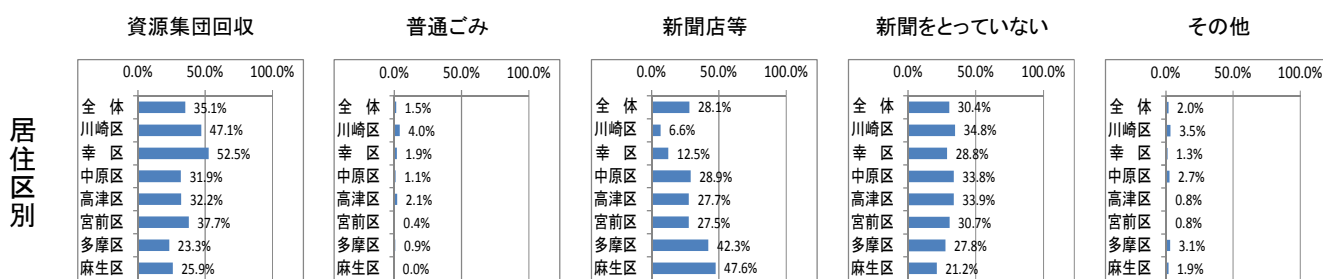
選択肢	回答数	比率
1 資源集団回収に出している	553	35.1%
2 普通ごみに出している	23	1.5%
3 新聞販売店等に回収してもらっている	442	28.1%
4 新聞を取っていない	479	30.4%
5 その他	32	2.0%
不明・無回答	46	2.9%
合計	1,575	100%

(その他の例: 駅や会社に捨てている、ミックスペーパーに混ぜている、他のごみを包むために使用等)



「資源集団回収に出している」が35.1%と最も多かった。次いで、「新聞を取っていない」が30.4%、「新聞販売店等に回収してもらっている」が28.1%である。

図表2-4 新聞の出し方(居住区別)

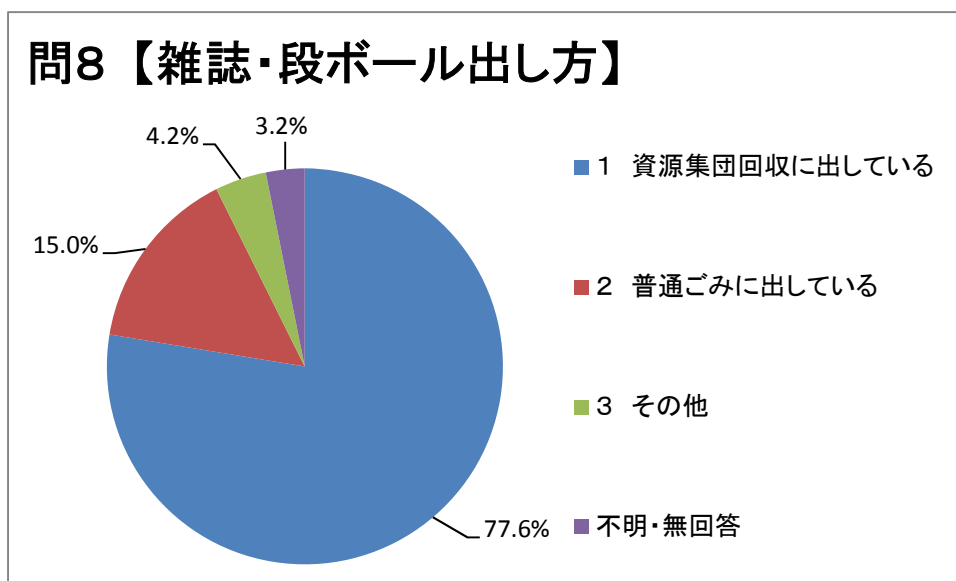


居住区別では、「資源集団回収」は、幸区が52.5%と最も高く、多摩区が23.3%で最も低い。「新聞店等」は、麻生区が47.6%と最も高く、川崎区が6.6%で最も低い。「新聞をとっていない」は、川崎区が34.8%と最も高く、麻生区が21.2%で最も低い。

質問8 雑誌・段ボールは、普段どのように出していますか。(1つに○)

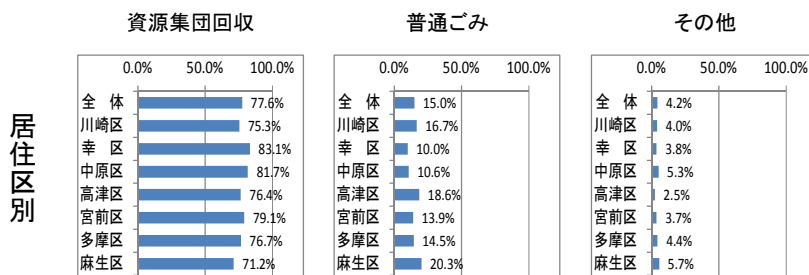
選択肢	回答数	比率
1 資源集団回収に出している	1,222	77.6%
2 普通ごみに出している	237	15.0%
3 その他	66	4.2%
不明・無回答	50	3.2%
合計	1,575	100%

(その他の例:雑誌は古本屋へ売却、ミックスペーパーに混ぜている等)



「資源集団回収に出している」が77.6%と最も多かった。「普通ごみに出している」は15.0%である。

図表2-5 雑誌・段ボールの出し方(居住区別)

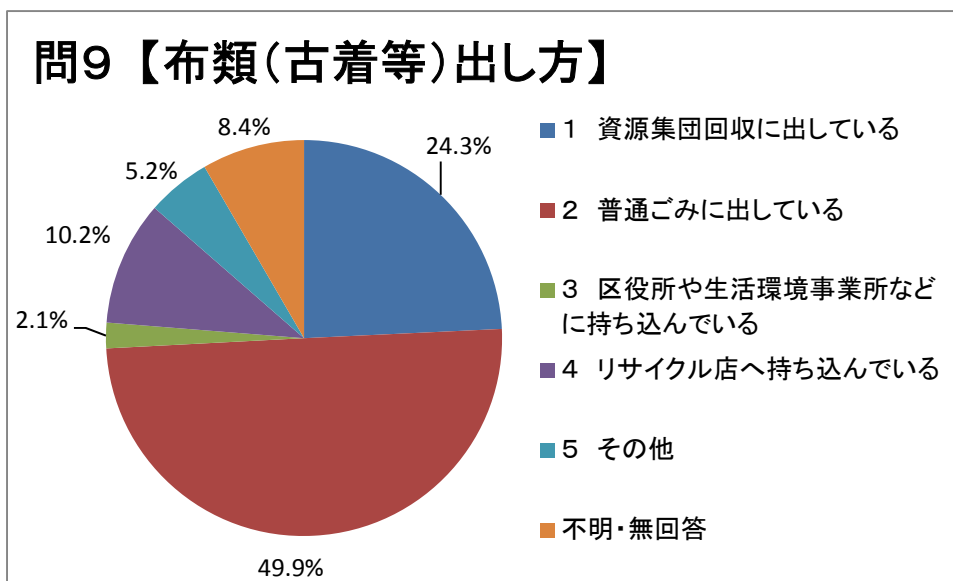


居住区別では、「資源集団回収」は、幸区が83.1%と最も高く、麻生区が71.2%で最も低い。「普通ごみ」は、麻生区が20.3%と最も高く、幸区が10.0%で最も低い。

質問9 布類(古着など)は、普段どのように出していますか。(1つに○)

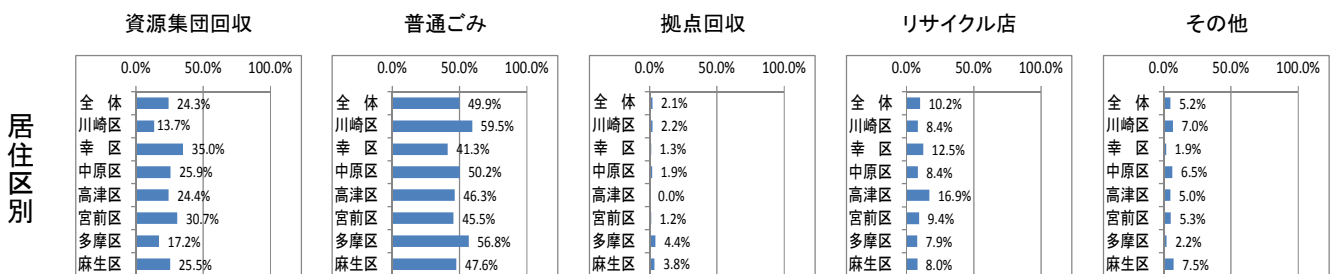
選択肢	回答数	比率
1 資源集団回収に出している	382	24.3%
2 普通ごみに出している	786	49.9%
3 区役所や生活環境事業所などに持ち込んでいる	33	2.1%
4 リサイクル店へ持ち込んでいる	160	10.2%
5 その他	82	5.2%
不明・無回答	132	8.4%
合計	1,575	100%

(その他の例: ぞうきんにしている、知人等にあげる、古着ショップに売る、外国に送る等)



「普通ごみに出している」が49.9%と最も多かった。次いで、「資源集団回収に出している」が24.3%、「リサイクル店へ持ち込んでいる」が10.2%である。

図表2-6 布類(古着等)の出し方(居住区別)



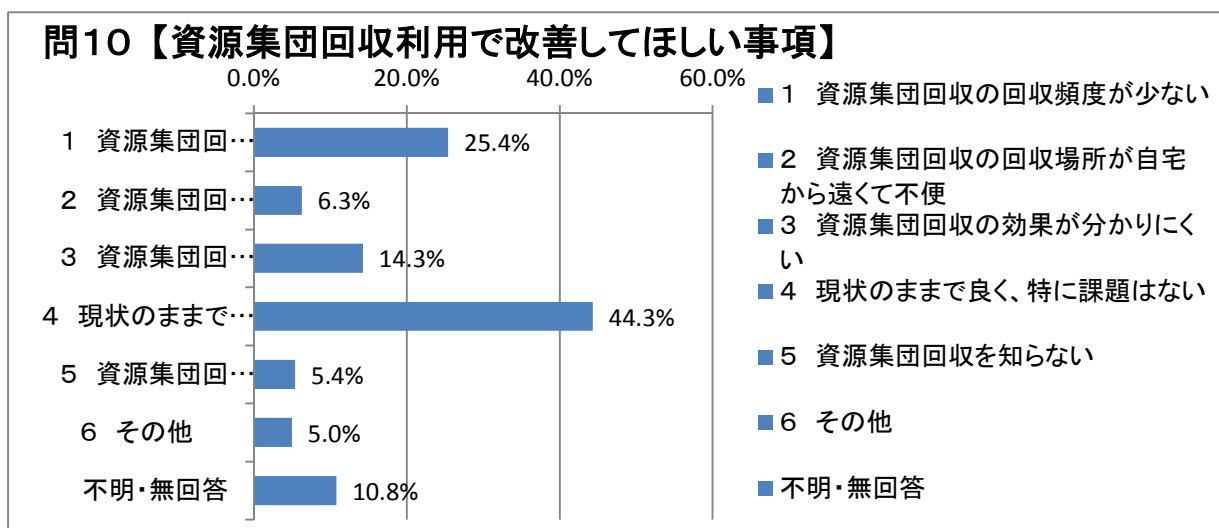
居住区別では、「資源集団回収」は、幸区が35.0%と最も高く、川崎区が13.7%で最も低い。「普通ごみ」は、川崎区が59.5%と最も高く、幸区が41.3%で最も低い。「リサイクル店」は、高津区が16.9%と最も高く、麻生区が8.0%で最も低い。

質問 10 資源集団回収を利用するにあたって、あなたが改善してほしいと感じる事項があれば教えてください。  
(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 資源集団回収の回収頻度が少ない	400	25.4%
2 資源集団回収の回収場所が自宅から遠くて不便	99	6.3%
3 資源集団回収の効果が分かりにくい	225	14.3%
4 現状のままで良く、特に課題はない	698	44.3%
5 資源集団回収を知らない	85	5.4%
6 その他	79	5.0%
不明・無回答	170	10.8%

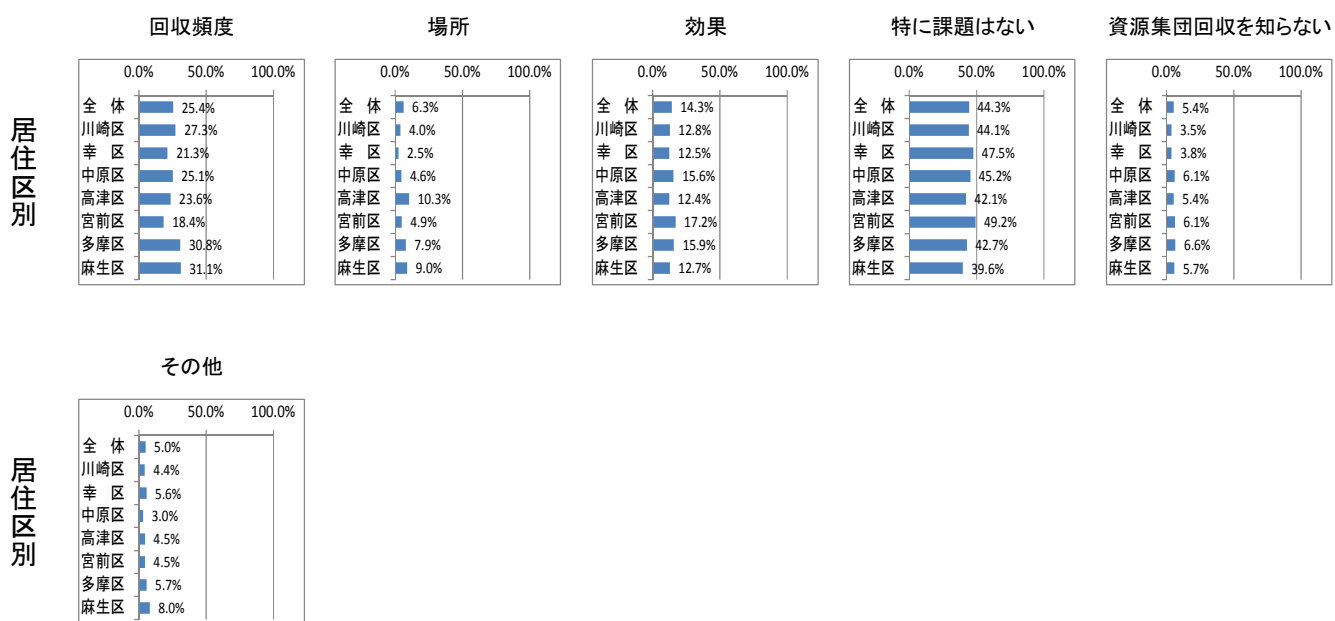
\* 合計回答数(1,575)を 100 とした時の比率

(その他の例: 古着など品目を増やしてほしい、回収していない自治会が多い、放火が心配等)



「現状のままで良く、特に課題はない」が 44.3%と最も多かった。次いで、「資源集団回収の回収頻度が少ない」が 25.4%、「資源集団回収の効果が分かりにくい」が 14.3%である。

図表2-7 資源集団回収利用で改善してほしい事項(居住区別)



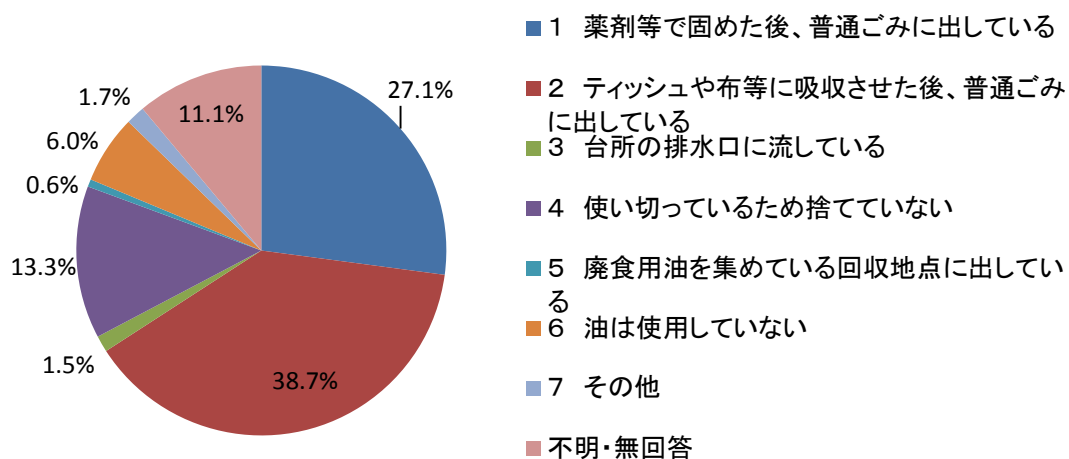
居住区別では、「回収頻度」は、麻生区が 31.1%と最も高く、宮前区が 18.4%で最も低い。「効果」は、宮前区が 17.2%と最も高く、高津区が 12.4%で最も低い。「特に課題はない」は、宮前区が 49.2%と最も高く、麻生区が 39.6%で最も低い。

質問 11 料理に使用した油(廃食用油)は、普段どのようにしていますか。(1つに○)

選択肢	回答数	比率
1 薬剤等で固めた後、普通ごみに出している	427	27.1%
2 ティッシュや布等に吸収させた後、普通ごみに出している	610	38.7%
3 台所の排水口に流している	23	1.5%
4 使い切っているため捨てていない	210	13.3%
5 廃食用油を集めている回収地点に出している	10	0.6%
6 油は使用していない	94	6.0%
7 その他	26	1.7%
不明・無回答	175	11.1%
合計	1,575	100%

(その他の例: 洗剤に再利用、牛乳パックに入れて捨てている等)

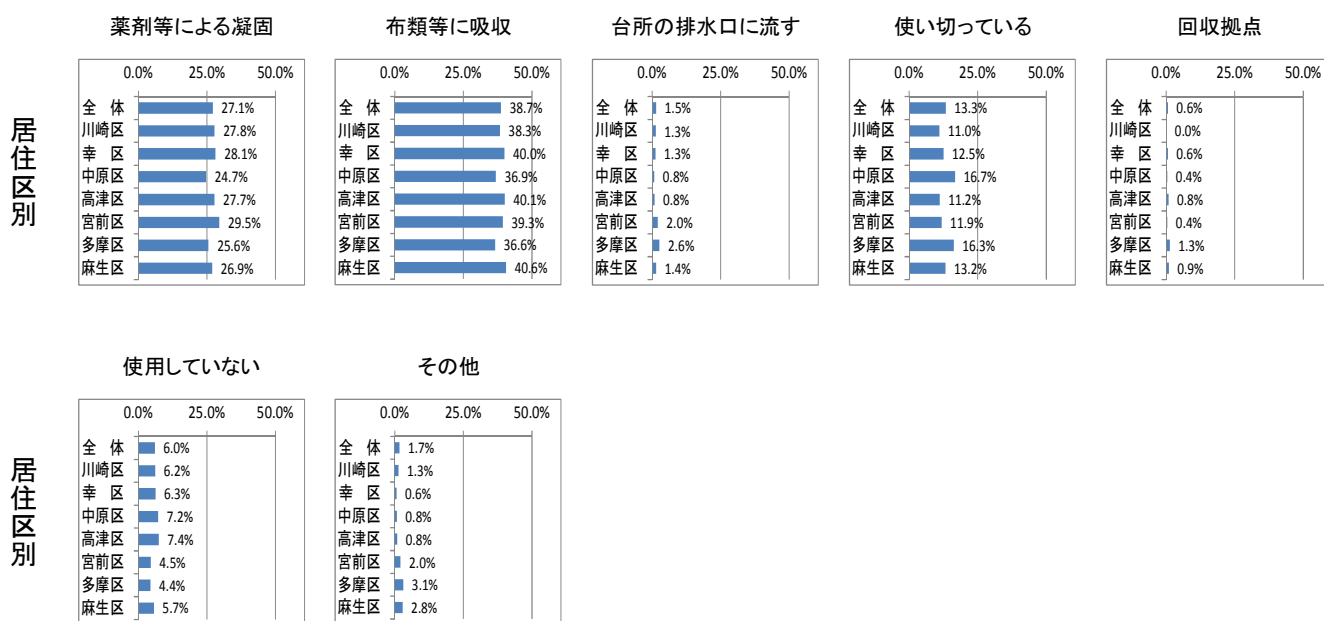
## 問11 【油(廃食用油)出し方】



「ティッシュや布等に吸収させた後、普通ごみに出している」が38.7%と最も多かった。次いで、「薬剤等で固めた後、普通ごみに出している」が27.1%、「使い切っているため捨てていない」が13.3%である。



図表2-8 油(廃食用油)の出し方(居住区別)

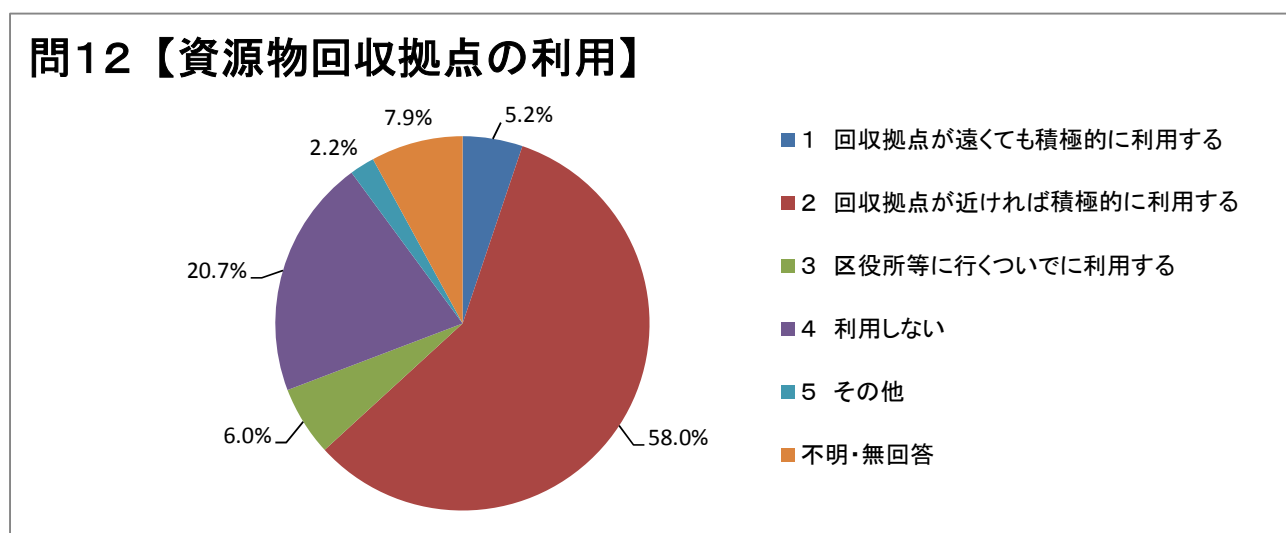


居住区別では、「薬剤等による凝固」は、宮前区が 29.5%と最も高く、中原区が 24.7%で最も低い。「布類等に吸収」は、麻生区が 40.6%と最も高く、多摩区が 36.6%で最も低い。「使い切っている」は、中原区が 16.7%と最も高く、川崎区が 11.0%で最も低い。

質問 12 区役所等の公共施設に「資源物」(新聞、雑誌、段ボール、古着など)の回収拠点を設け、曜日に関わらず資源物を出せるようになった場合、あなたは利用しますか。(1つに○)

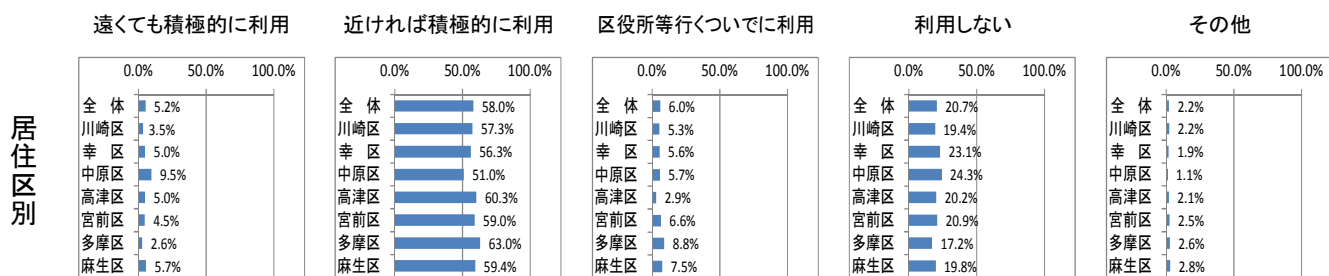
選択肢	回答数	比率
1 回収拠点が遠くても積極的に利用する	82	5.2%
2 回収拠点が近ければ積極的に利用する	913	58.0%
3 区役所等に行くついでに利用する	95	6.0%
4 利用しない	326	20.7%
5 その他	34	2.2%
不明・無回答	125	7.9%
合計	1,575	100%

(その他の例:夜間も出せるのなら遠くても利用する、子育て中の世帯には難しい、車がない等)



「回収拠点が近ければ積極的に利用する」が 58.0%と最も多かった。次いで、「利用しない」が 20.7%である。

図表2-9 資源物回収拠点の利用(居住区別)



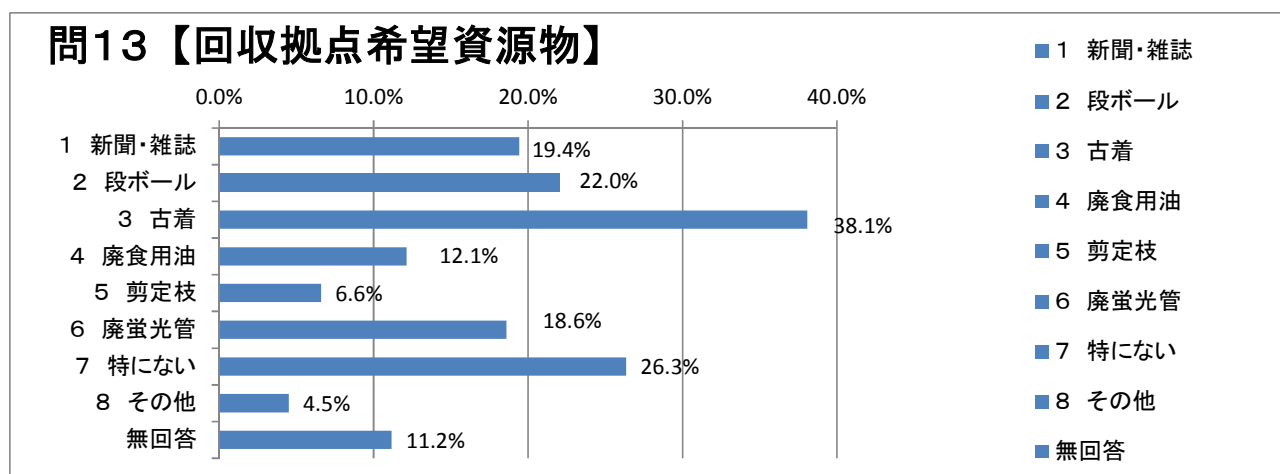
居住区別では、「近ければ積極的に利用」は、多摩区が 63.0%と最も高く、中原区が 51.0%で最も低い。「利用しない」は、中原区が 24.3%と最も高く、多摩区が 17.2%で最も低い。

質問 13 回収拠点を設けてほしいと思う資源物がありますか。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 新聞・雑誌	306	19.4%
2 段ボール	347	22.0%
3 古着	600	38.1%
4 廃食用油	191	12.1%
5 剪定枝	104	6.6%
6 廃蛍光管	293	18.6%
7 特にない	415	26.3%
8 その他	71	4.5%
不明・無回答	176	11.2%

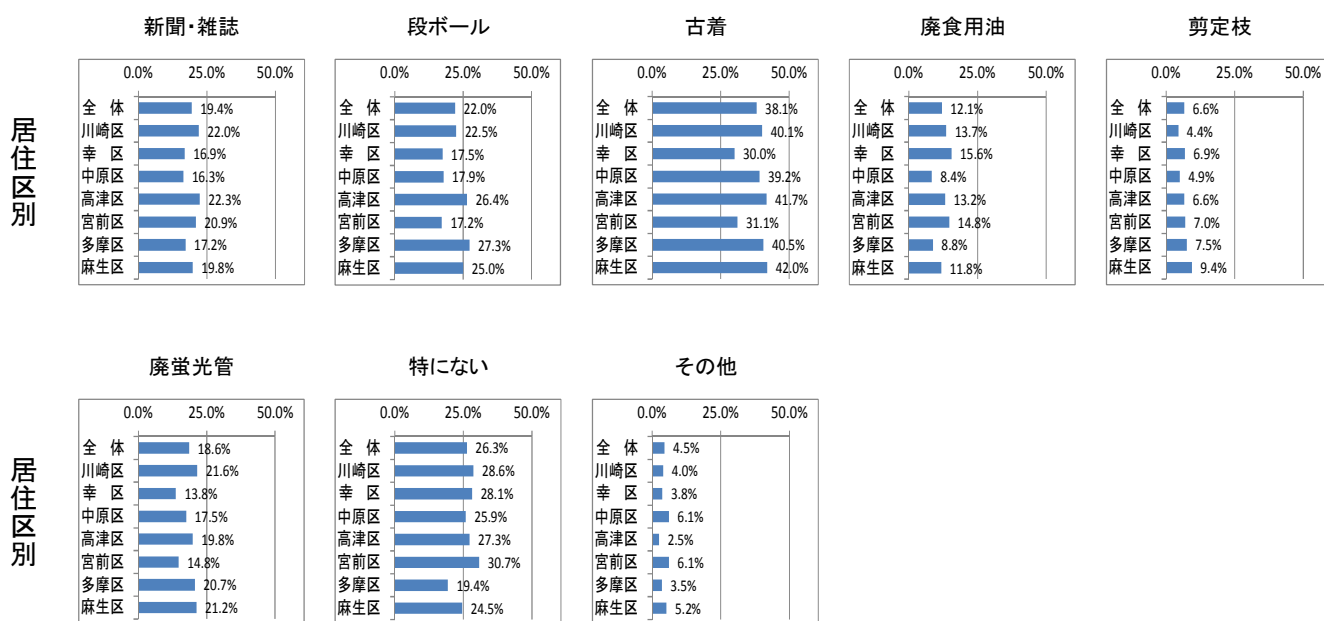
\* 合計回答数(1,575)を 100 とした時の比率

(その他の例:家電製品(小型家電含む)、電池、土、スプレー缶、ふとん等)



「古着」が 38.1%と最も多かった。次いで、「特にない」が 26.3%、「段ボール」が 22.0%、「新聞・雑誌」が 19.4%、「廃蛍光管」が 18.6%、「廃食用油」が 12.1%である。

図表2-10 回収拠点を設けてほしい資源物(居住区別)



居住区別では、「新聞・雑誌」は、高津区が 22.3%と最も高く、中原区が 16.3%で最も低い。「段ボール」は、多摩区が 27.3%と最も高く、宮前区が 17.2%で最も低い。「古着」は、麻生区が 42.0%と最も高く、幸区が 30.0%で最も低い。「廃食用油」は、幸区が 15.6%と最も高く、中原区が 8.4%で最も低い。「廃蛍光灯」は、川崎区が 21.6%と最も高く、幸区が 13.8%で最も低い。「特にない」は、宮前区が 30.7%と最も高く、多摩区が 19.4%で最も低い。

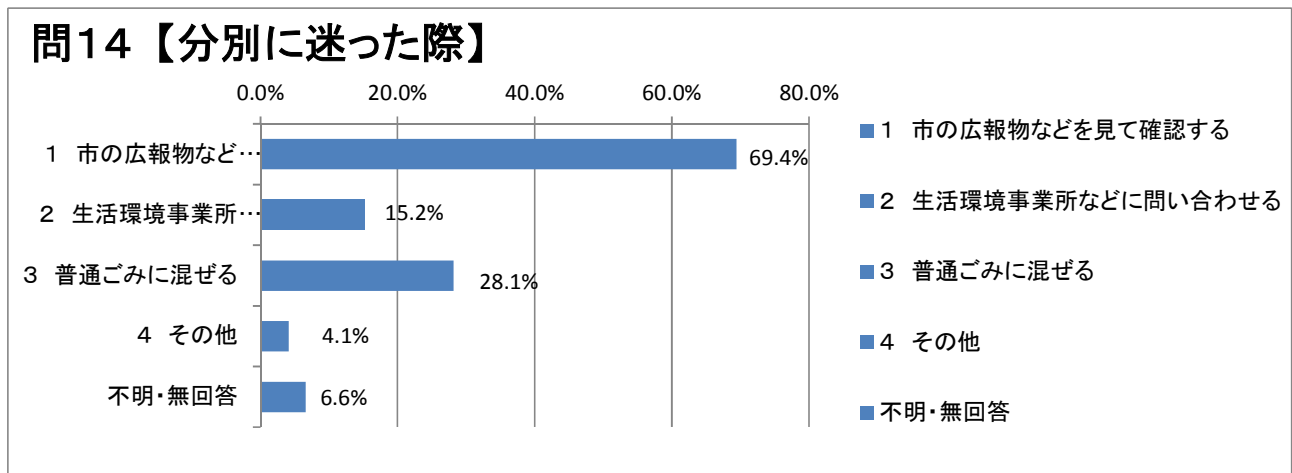
## 【ごみの広報に関すること】

質問 14 分別に迷った際にはどのようにしていますか。(いくつでも○)

選択肢	回答数	比率*
1 市の広報物などを見て確認する	1,093	69.4%
2 生活環境事業所などに問い合わせる	239	15.2%
3 普通ごみに混ぜる	443	28.1%
4 その他	65	4.1%
不明・無回答	104	6.6%

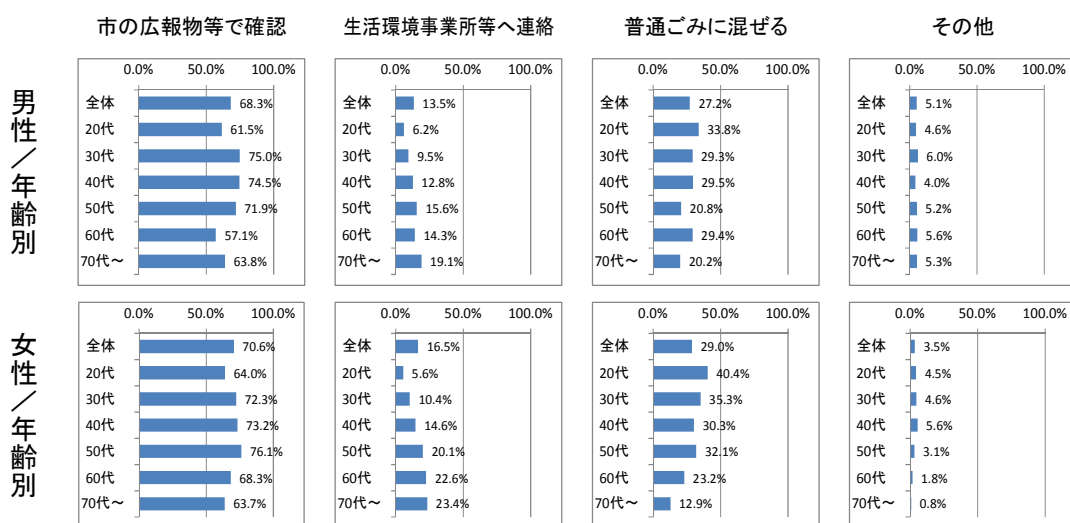
\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例:迷うことがない、近所の方に聞く、管理人に聞く等)



「市の広報物などを見て確認する」が69.4%と最も多かった。次いで、「普通ごみに混ぜる」が28.1%、「生活環境事業所などに問い合わせる」が15.2%である。

図表3-1 分別に迷った際の対応(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「市の広報物等で確認」は、男性では 30 歳代が最も多いのに対し、女性では 50 歳代が最も多い。

「生活環境事業所等へ連絡」は、男性では 60 歳代を除いて、女性では全年齢を通して、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

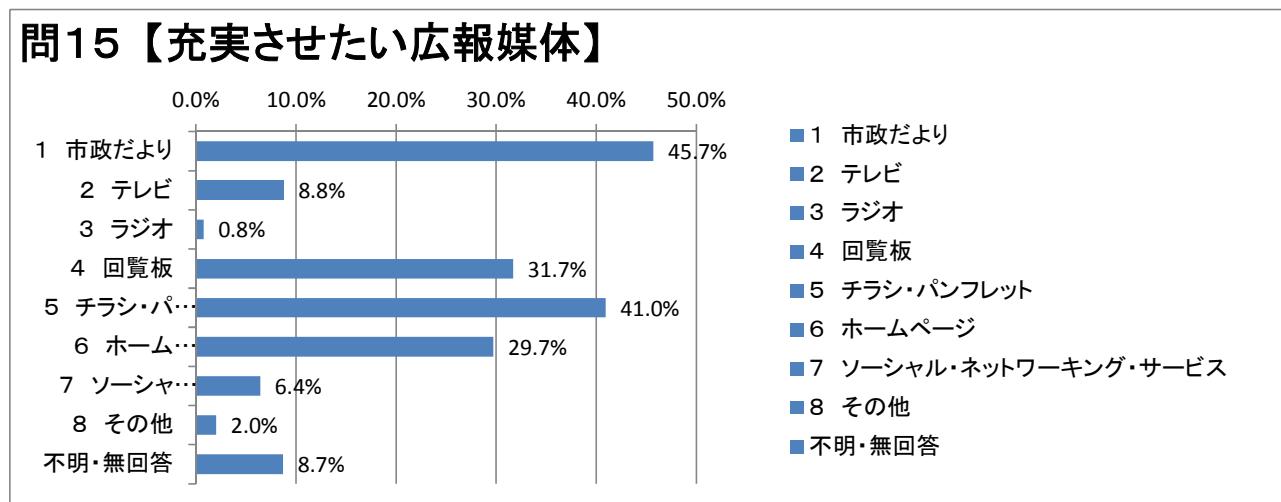
「普通ごみに混ぜる」は、男女ともに 20 歳代が最も多い。

質問 15 どのような媒体による広報を充実させてほしいですか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	比率*
1 市政だより	720	45.7%
2 テレビ	138	8.8%
3 ラジオ	12	0.8%
4 回覧板	499	31.7%
5 チラシ・パンフレット	645	41.0%
6 ホームページ	468	29.7%
7 ソーシャル・ネットワーキング・サービス	101	6.4%
8 その他	32	2.0%
不明・無回答	137	8.7%

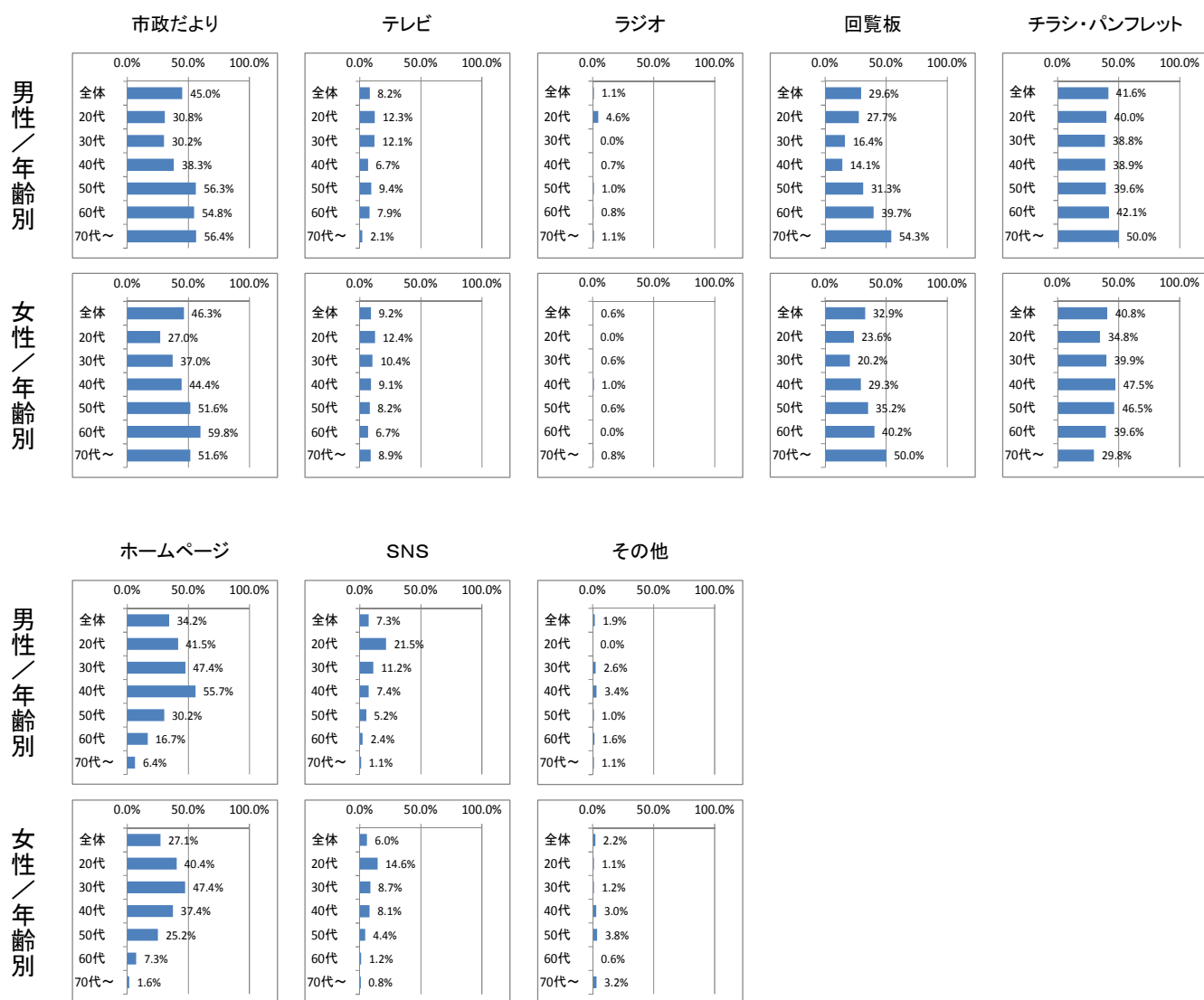
\* 合計回答数(1,575)を 100 とした時の比率

(その他の例:集積所への掲示、メール、町内会の掲示板の活用、ラッピングバス等)



「市政だより」が 45.7%と最も多かった。次いで、「チラシ・パンフレット」が 41.0%、「回覧板」が 31.7%、「ホームページ」が 29.7%である。

図表3-2 充実させたい広報媒体(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「市政だより」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では70歳代以上を除いて、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「回覧板」は、男性では40歳代以上で、女性では30歳代以上で、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「チラシ・パンフレット」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では40歳代が最も多い。

「ホームページ」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多い。

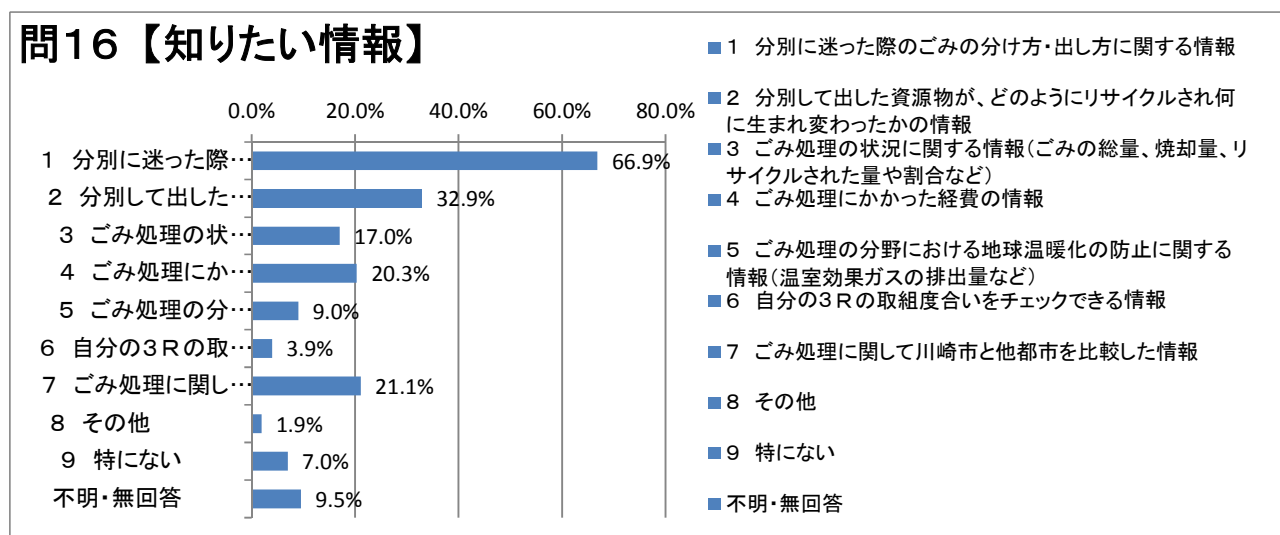


質問 16 ごみ処理に関わるどのような情報を知りたいと思いますか(○は3つまで)

選択肢	回答数	比率*
1 分別に迷った際のごみの分け方・出し方に関する情報	1,053	66.9%
2 分別して出した資源物が、どのようにリサイクルされ何に生まれ変わったかの情報	518	32.9%
3 ごみ処理の状況に関する情報(ごみの総量、焼却量、リサイクルされた量や割合など)	268	17.0%
4 ごみ処理にかかった経費の情報	320	20.3%
5 ごみ処理の分野における地球温暖化の防止に関する情報(温室効果ガスの排出量など)	142	9.0%
6 自分の3Rの取組度合いをチェックできる情報	62	3.9%
7 ごみ処理に関して川崎市と他都市を比較した情報	332	21.1%
8 その他	30	1.9%
9 特にない	110	7.0%
不明・無回答	150	9.5%

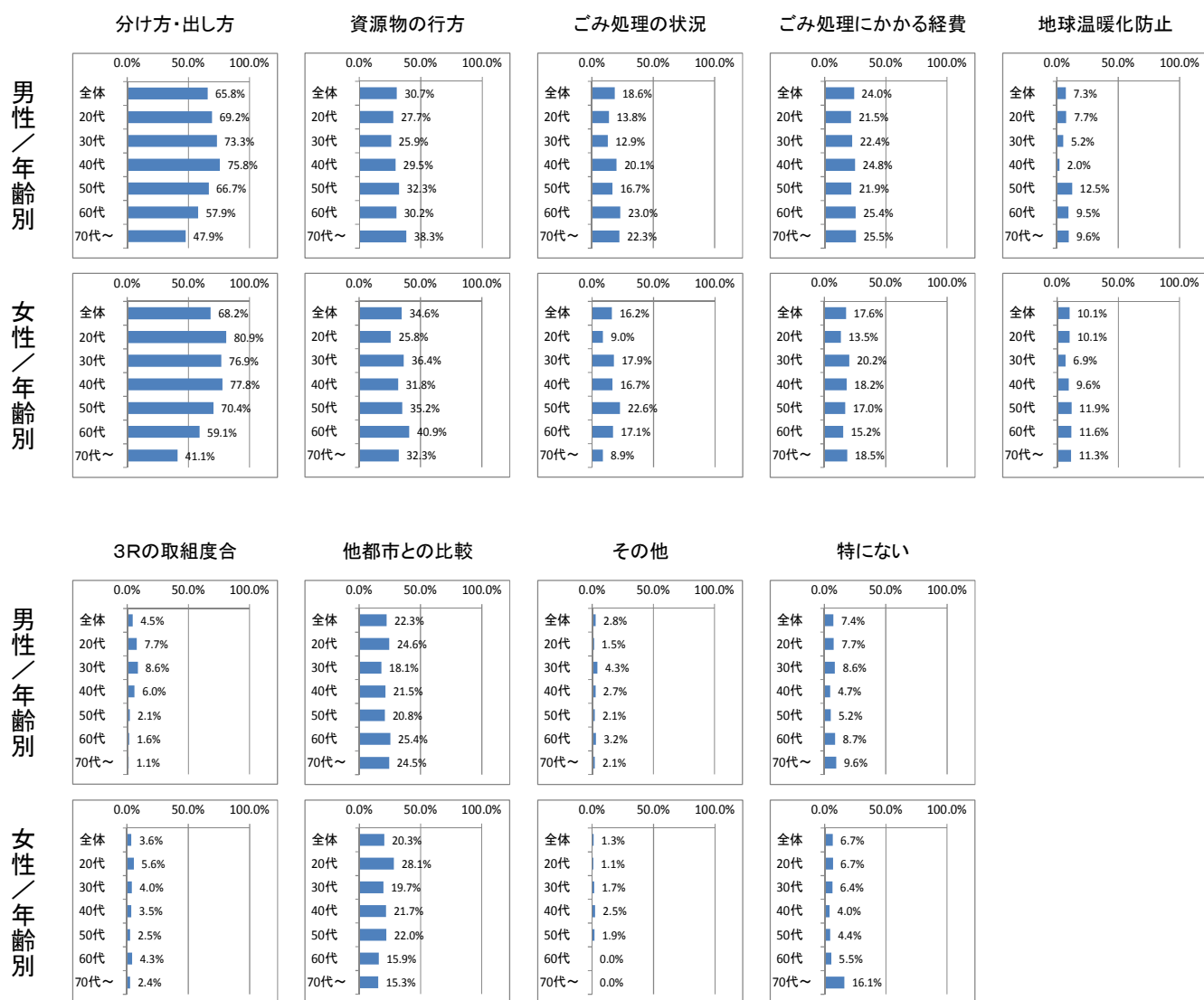
\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例:分別する理由、分別による効果、ごみを上手に減らすコツ、焼却とリサイクルの費用対効果、放射能・ダイオキシンの発生成値、欧州の事例紹介等)



「分別に迷った際のごみの分け方・出し方に関する情報」が66.9%と最も多かった。次いで、「分別して出した資源物が、どのようにリサイクルされ何に生まれ変わったかの情報」が32.9%、「ごみ処理に関して川崎市と他都市を比較した情報」が21.1%、「ごみ処理にかかった経費の情報」が20.3%、「ごみ処理の状況に関する情報(ごみの総量、焼却量、リサイクルされた量や割合など)」が17.0%である。

図表3-3 ごみ処理に関わる知りたい情報(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「分け方・出し方」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代を除いて、年齢が低くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。

「資源物の行方」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では60歳代が最も多い。

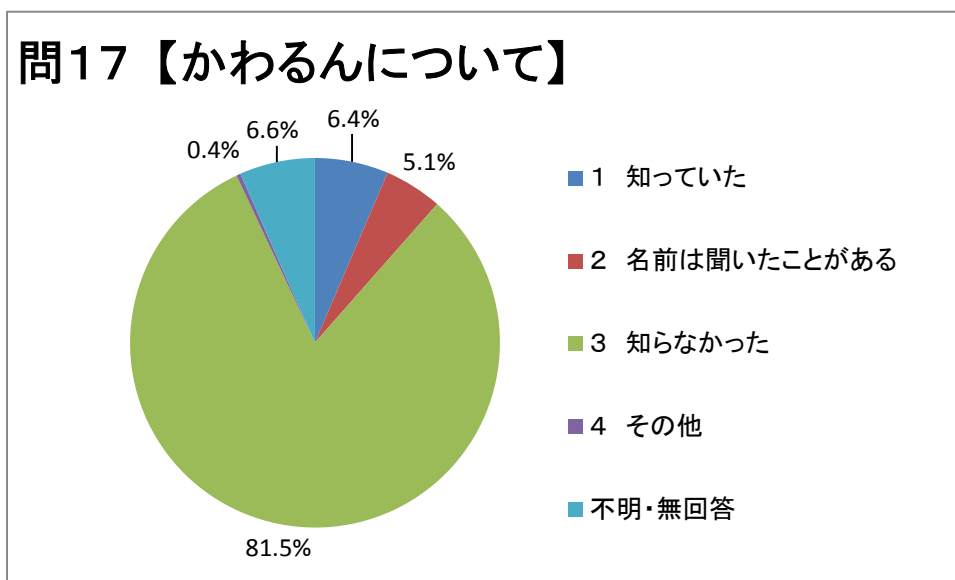
「ごみ処理の状況」は、男性では60歳代が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

「ごみ処理にかかる経費」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多い。

「他都市との比較」は、男性では60歳代以上が最も多いのに対し、女性では20歳代が最も多い。

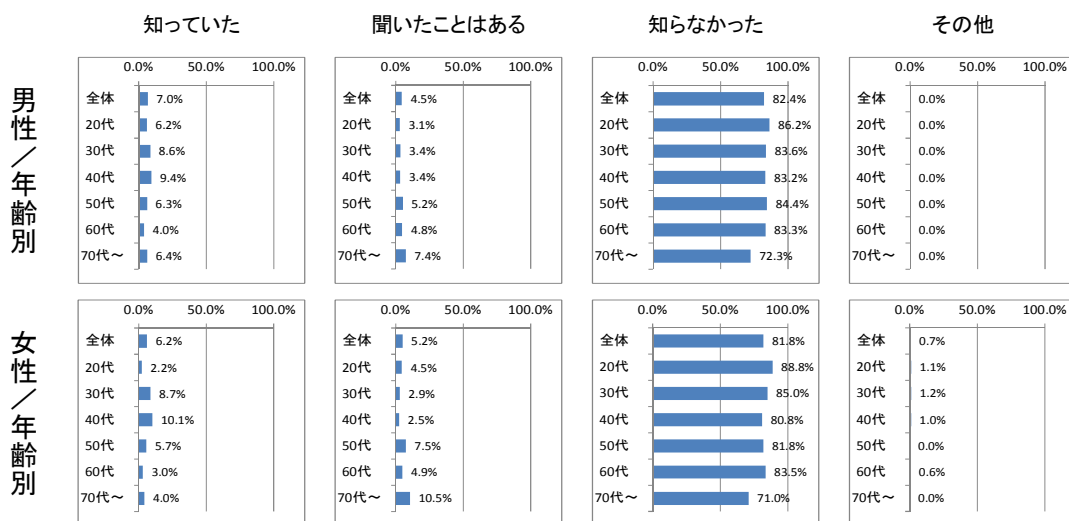
質問 17 あなたはかわさき3R推進キャラクター「かわるん」を知っていましたか。(1つに○)

選択肢	回答数	比率
1 知っていた	101	6.4%
2 名前は聞いたことがある	80	5.1%
3 知らなかった	1,284	81.5%
4 その他	6	0.4%
不明・無回答	104	6.6%
合計	1,575	100%



「知らなかった」が81.5%と最も多かった。「知っていた」は6.4%、「名前は聞いたことがある」が5.1%である。

図表3-4 かわるんについて(性別/年齢別)



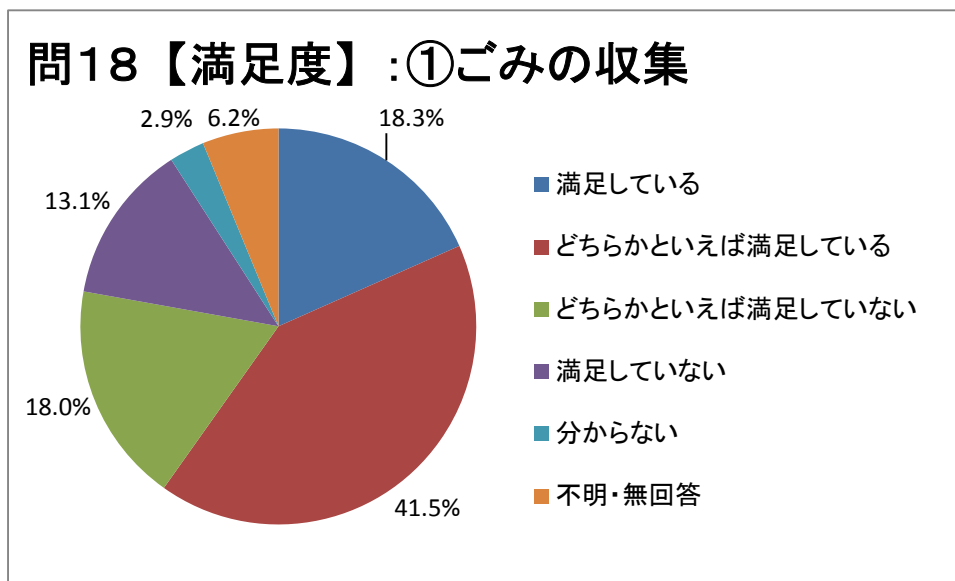
性別/年齢別では、「知らなかった」は、男女ともに20歳代が最も多い。

## 【市の取組に関すること】

質問 18 市では、ごみの減量やリサイクルを推進するため、様々な施策に取り組んでいますが、現在のごみ処理についてどの程度満足していますか。各設問について、5つの中から1つに○をつけてください。

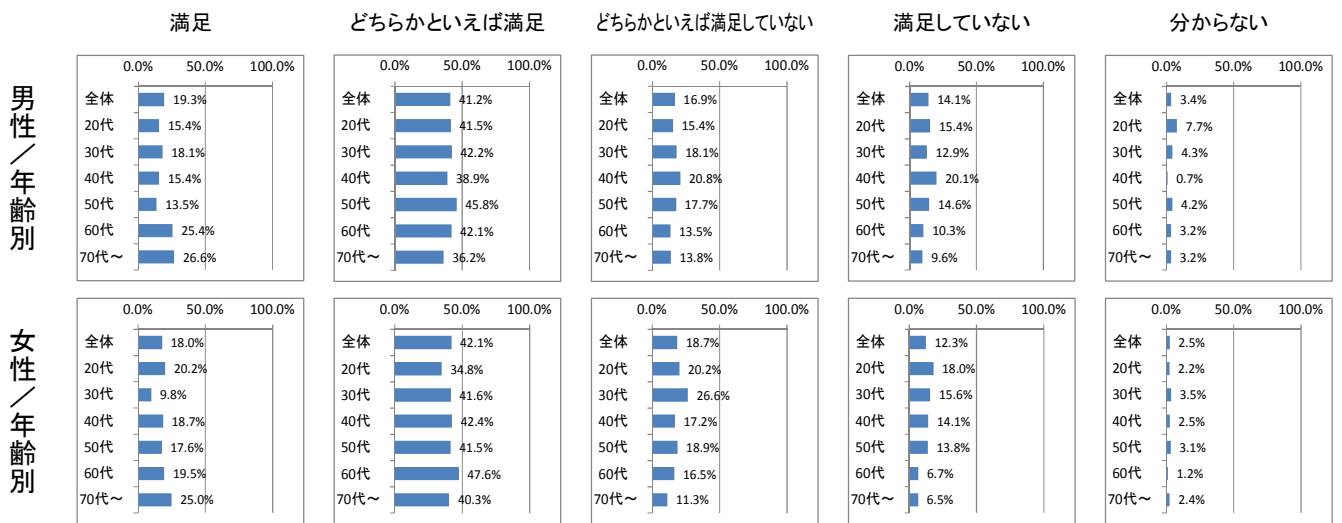
### 【① ごみの収集】

選択肢	回答数	比率
満足している	289	18.3%
どちらかといえば満足している	653	41.5%
どちらかといえば満足していない	284	18.0%
満足していない	206	13.1%
分からない	45	2.9%
不明・無回答	98	6.2%
合計	1,575	100%



「どちらかといえば満足している」が 41.5%と最も多かった。次いで、「満足している」が 18.3%、「どちらかといえば満足していない」が 18.0%、「満足していない」が 13.1%である。

図表3-5-1 市の取組【① ごみの収集】(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「満足」は、男女ともに70歳代以上が最も多い。

「どちらかといえば満足」は、男性では50歳代が最も多いのに対し、女性では60歳代が最も多い。

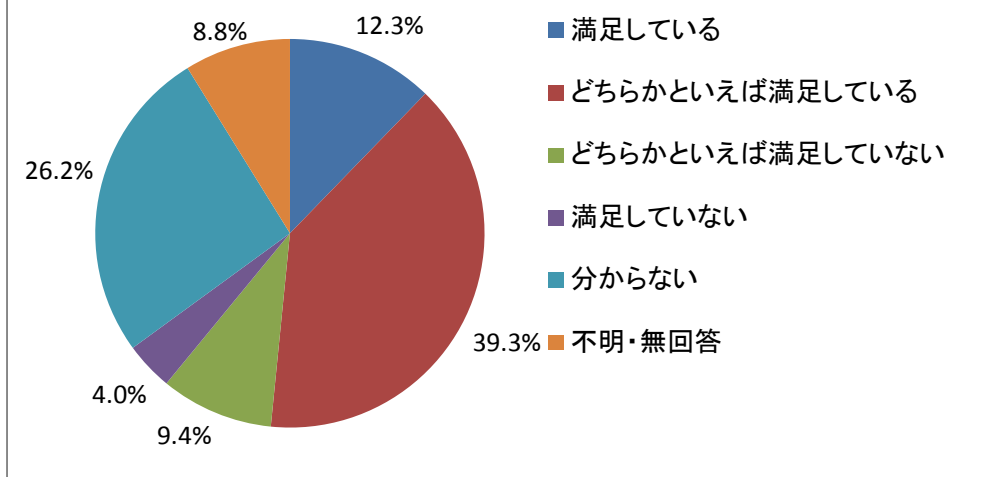
「どちらかといえば満足していない」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多い。

「満足していない」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では20歳代が最も多い。

【② 3R(リデュース・リユース・リサイクル)への取組】

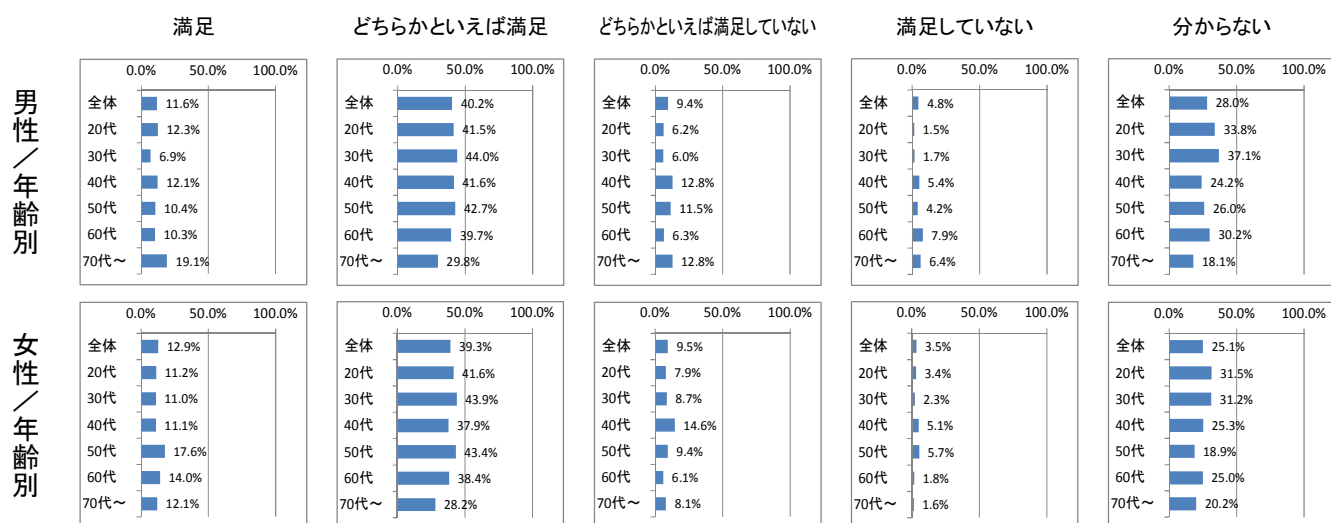
選択肢	回答数	比率
満足している	193	12.3%
どちらかといえば満足している	619	39.3%
どちらかといえば満足していない	148	9.4%
満足していない	63	4.0%
分からない	413	26.2%
不明・無回答	139	8.8%
合計	1,575	100%

問18 【満足度】：②3Rへの取組



「どちらかといえば満足している」が39.3%と最も多かった。次いで、「満足している」が12.3%である。「どちらかといえば満足していない」は9.4%、「満足していない」は4.0%である。

図表3-5-2 市の取組【②2 3Rへの取組】(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「満足」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

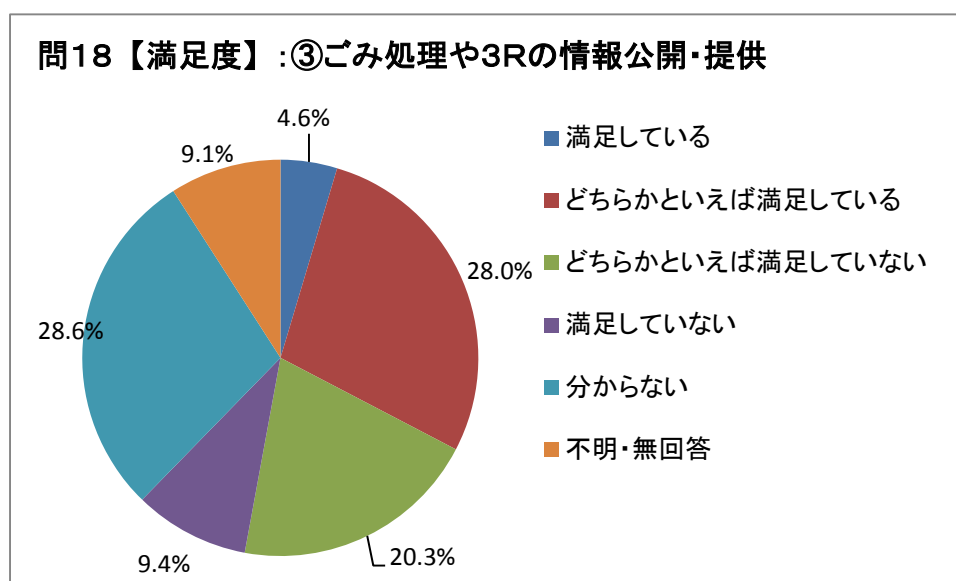
「どちらかといえば満足」は、男女ともに30歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足していない」は、男性では40歳代及び70歳代以上が最も多いのに対し、女性では40歳代が最も多い。

「満足していない」は、男性では60歳代が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

【③ ごみ処理や3Rの情報公開・提供】

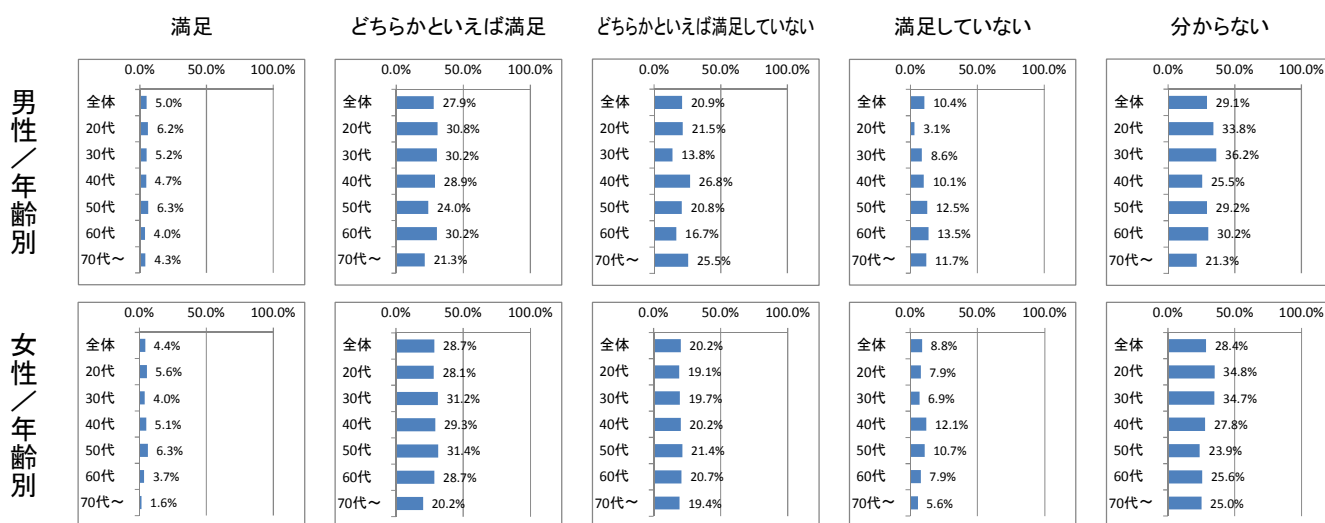
選択肢	回答数	比率
満足している	73	4.6%
どちらかといえば満足している	441	28.0%
どちらかといえば満足していない	319	20.3%
満足していない	148	9.4%
分からない	451	28.6%
不明・無回答	143	9.1%
合計	1,575	100%



「分からない」が28.6%と最も多かった。次いで、「どちらかといえば満足している」が28.0%、「どちらかといえば満足していない」が20.3%である。「満足していない」は9.4%、「満足している」は4.6%である。



図表3-5-3 市の取組【③ ごみ処理や3Rの情報公開・提供】(性別／年齢別)



性別／年齢別では、「満足」は、男女ともに 50 歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足」は、男性では 20 歳代が最も多いのに対し、女性では 50 歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足していない」は、男性では 40 歳代が最も多いのに対し、女性では 50 歳代が最も多い。

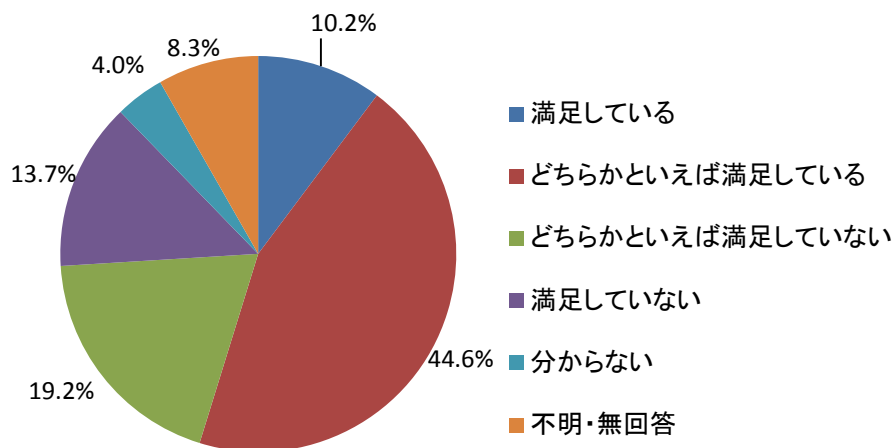
「満足していない」は、男性では 60 歳代が最も多いのに対し、女性では 40 歳代が最も多い。

「分からない」は、男性では 30 歳代が最も多いのに対し、女性では 20 歳代が最も多い。

【④ 街(ごみ集積所や駅周辺など)の清潔さ】

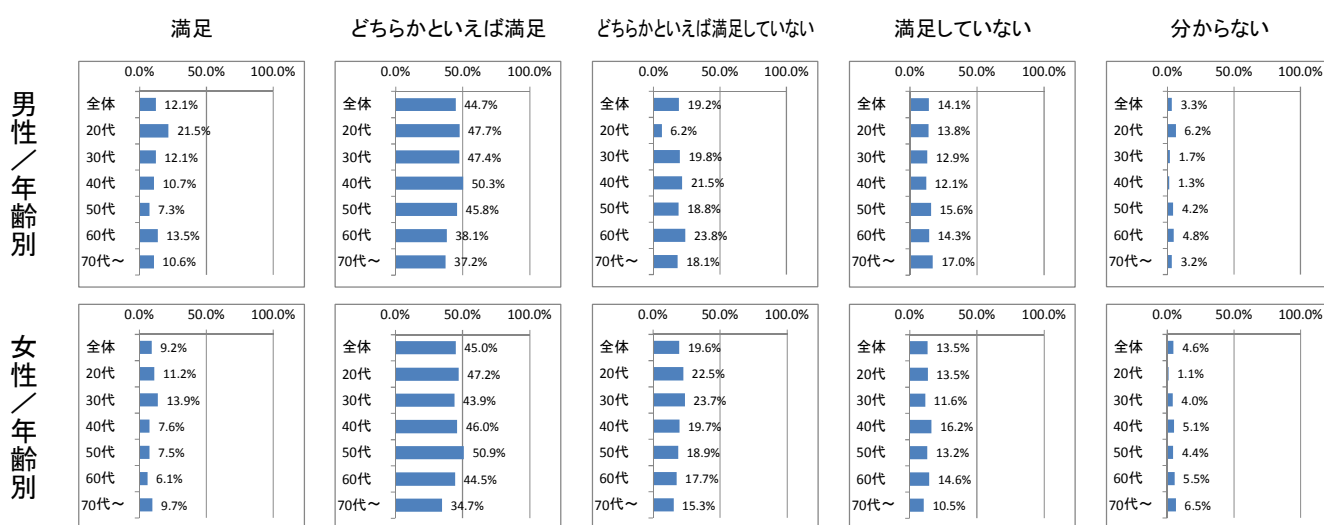
選択肢	回答数	比率
満足している	161	10.2%
どちらかといえば満足している	702	44.6%
どちらかといえば満足していない	303	19.2%
満足していない	216	13.7%
分からない	63	4.0%
不明・無回答	130	8.3%
合計	1,575	100%

問18【満足度】：④街の清潔さ



「どちらかといえば満足している」が 44.6%と最も多かった。次いで、「どちらかといえば満足していない」が 19.2%、「満足していない」が 13.7%、「満足している」が 10.2%である。

図表3-5-4 市の取組【④ 街(ごみ集積所や駅周辺など)の清潔さ】(性別／年齢別)



性別／年齢別では、「満足」は、男性では20歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多い。

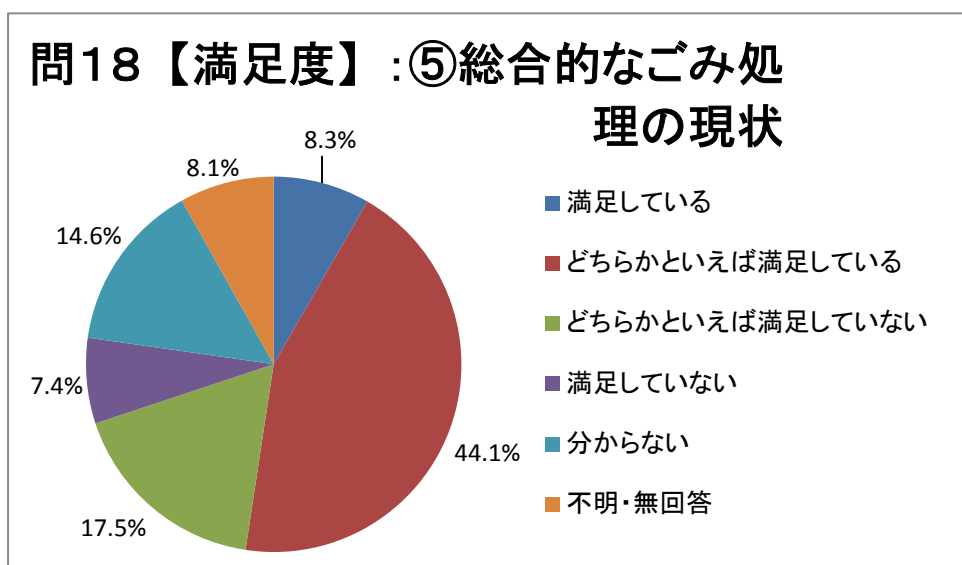
「どちらかといえば満足」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足していない」は、男性では60歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多い。

「満足していない」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では40歳代が最も多い。

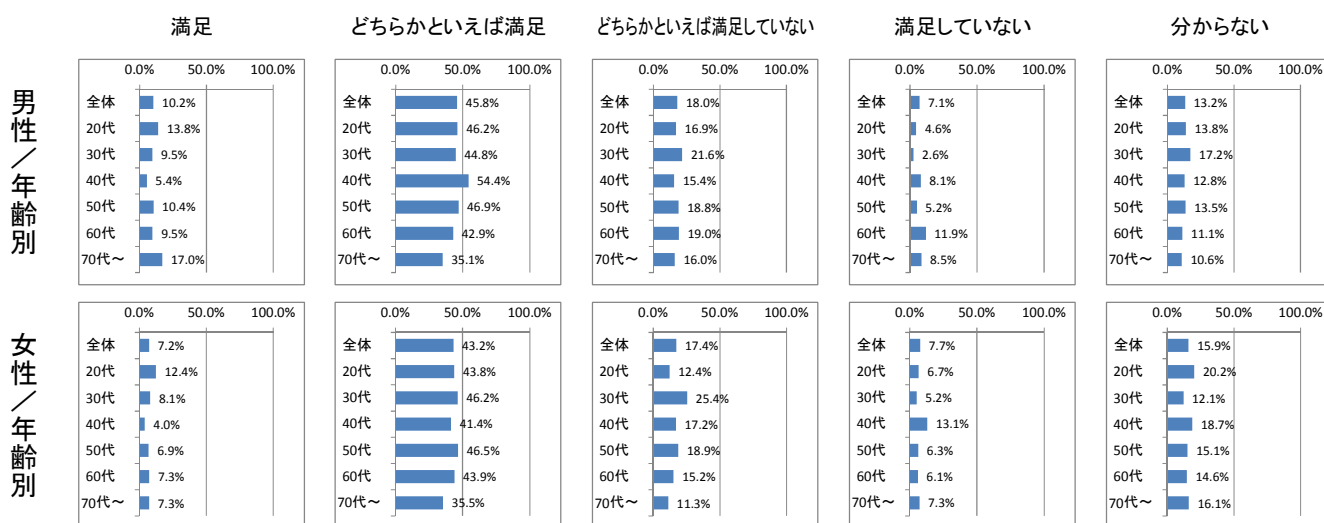
【⑤ 総合的なごみ処理の現状について】

選択肢	回答数	比率
満足している	131	8.3%
どちらかといえば満足している	694	44.1%
どちらかといえば満足していない	276	17.5%
満足していない	116	7.4%
分からない	230	14.6%
不明・無回答	128	8.1%
合計	1,575	100%



「どちらかといえば満足している」が 44.1%と最も多かった。次いで、「どちらかといえば満足していない」が 17.5%、「わからない」が 14.6%である。「満足している」は 8.3%、「満足していない」は 7.4%である。

図表3-5-5 市の取組【総合的なごみ処理の現状について】(性別／年齢別)



性別／年齢別では、「満足」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では20歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足」は、男性では40歳代が最も多いのに対し、女性では50歳代が最も多い。

「どちらかといえば満足していない」は、男女ともに30歳代が最も多い。

「満足していない」は、男性では60歳代が最も多いのに対し、女性では40歳代が最も多い。

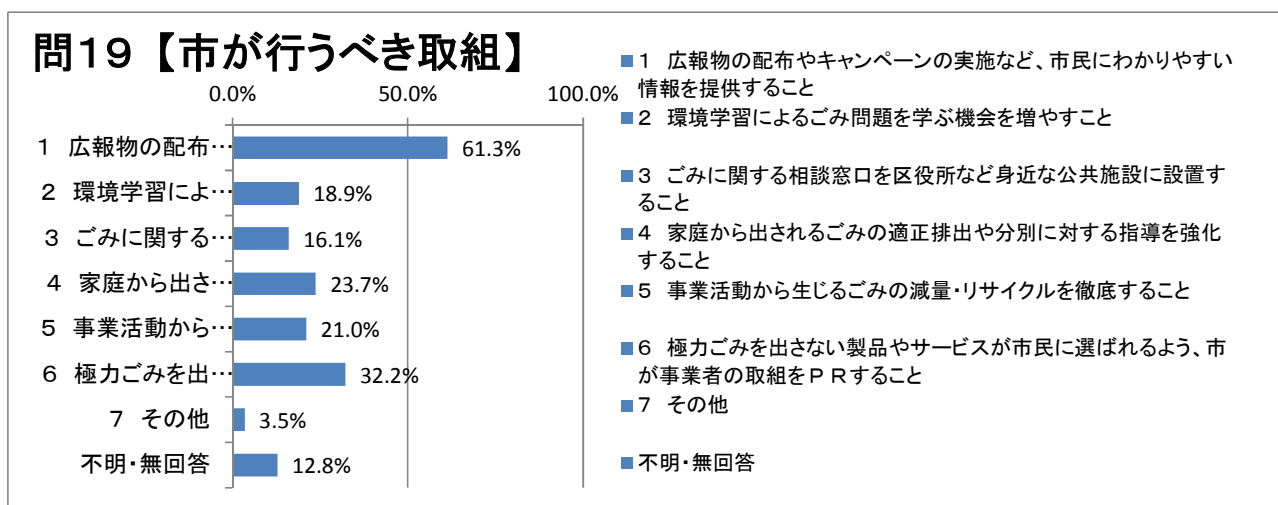
「分からない」は、男性では30歳代が最も多いのに対し、女性では20歳代が最も多い。

質問 19 今後、ごみの減量とリサイクルを進めていくために、市はどのような取組を行うべきですか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	比率*
1 広報物の配布やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること	966	61.3%
2 環境学習によるごみ問題を学ぶ機会を増やすこと	298	18.9%
3 ごみに関する相談窓口を区役所など身近な公共施設に設置すること	253	16.1%
4 家庭から出されるごみの適正排出や分別に対する指導を強化すること	373	23.7%
5 事業活動から生じるごみの減量・リサイクルを徹底すること	331	21.0%
6 極力ごみを出さない製品やサービスが市民に選ばれるよう、市が事業者の取組をPRすること	507	32.2%
7 その他	55	3.5%
不明・無回答	202	12.8%

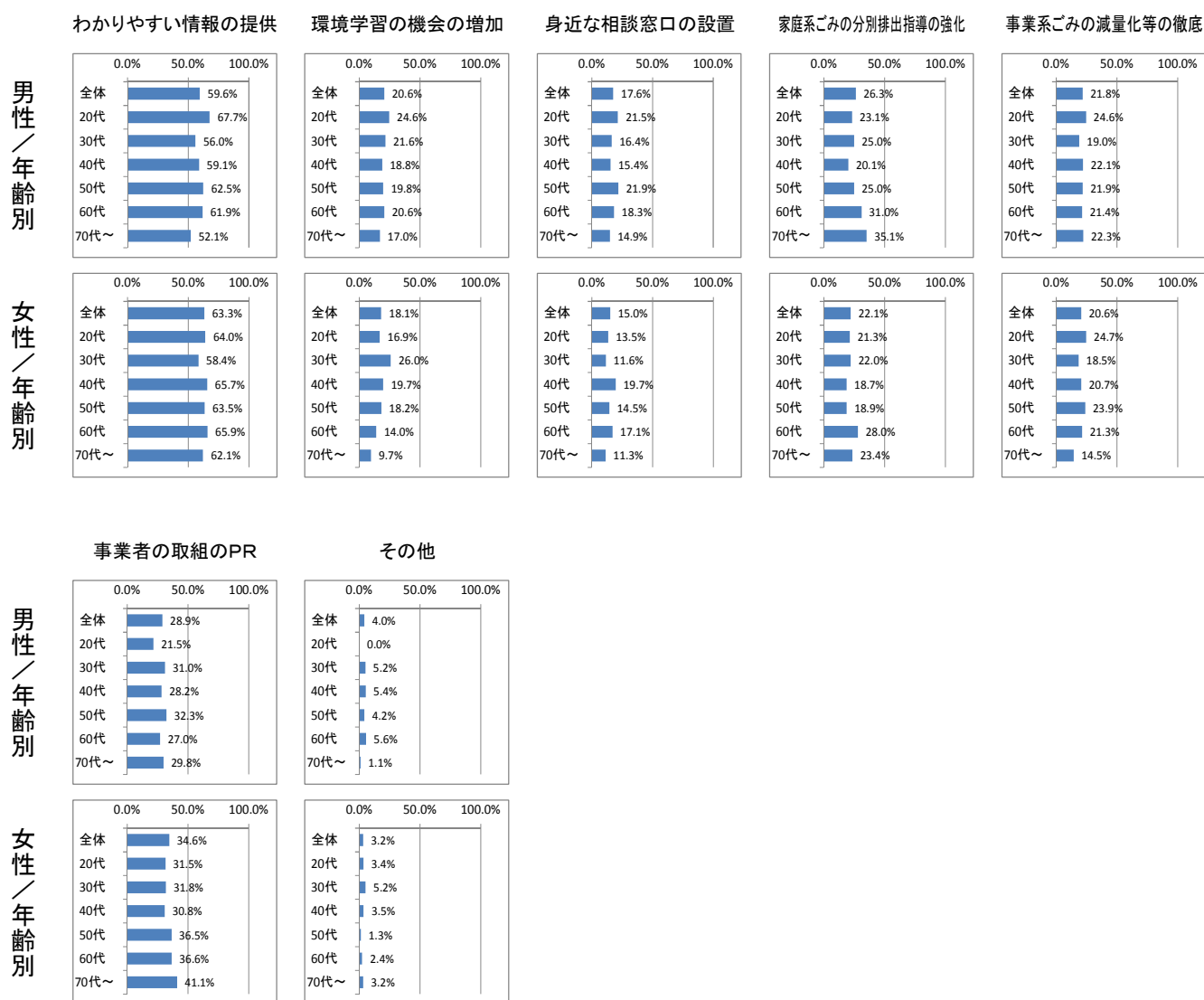
\* 合計回答数(1,575)を100とした時の比率

(その他の例:収集日を3回に戻す、外国人への広報の充実、行政と地域のコミュニケーションの充実、かなり細かい具体的な分別辞典の作成、市がネット上のフリマを運営する、小学生への徹底教育等)



「広報物の配布やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること」が61.3%と最も多かった。次いで、「極力ごみを出さない製品やサービスが市民に選ばれるよう、市が事業者の取組をPRすること」が32.2%、「家庭から出されるごみの適正排出や分別に対する指導を強化すること」が23.7%、「事業活動から生じるごみの減量・リサイクルを徹底すること」が21.0%、「環境学習によるごみ問題を学ぶ機会を増やすこと」が18.9%、「ごみに関する相談窓口を区役所など身近な公共施設に設置すること」が16.1%である。

図表3-6 今後市が行うべき取組(性別/年齢別)



性別/年齢別では、「わかりやすい情報の提供」は、男性では20歳代が最も多いのに対し、女性では60歳代が最も多い。

「環境学習の機会の増加」は、男性では20歳代が最も多いのに対し、女性では30歳代が最も多く、20歳代を除いて年齢が低くなるにつれ割合が多くなる傾向がある。

「身近な相談窓口の設置」は、男性では50歳代が最も多いのに対し、女性では40歳代が最も多い。

「家庭系ごみの分別排出指導の強化」は、男性では70歳代以上が最も多いのに対し、女性では60歳代が最も多い。

「事業系ごみの減量化等の徹底」は、男女ともに20歳代が最も多い。

「事業者の取組のPR」は、男性では50歳代が最も多いのに対し、女性では70歳代以上が最も多い。